

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供									
【年度計画】 (4館共通) イ 文化財活用センターが中心となり、企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカやVR等映像コンテンツの開発・提供に取り組む。										
担当部課	本部文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長 松嶋雅人							
【実績・成果】 (4館共通) イ ・企業等との連携や共同研究プロジェクトの締結を行い、高精細画像撮影等の先端技術を用いて、高精細複製屏風や映像コンテンツ等の開発を行った。 ・開発したコンテンツを体験型展示に活用することで文化財への理解を深める機会を提供したほか、企業等への高精細複製品貸出事業や、教育機関を対象とした複製品による教育プログラム事業の開発を開始し、全国の人々が文化財に親しむ機会の創出に寄与した。										
【補足事項】 (4館共通) イ ・「国宝 洛中洛外図屏風（舟木本）」の高精細複製品及び「国宝 聖徳太子絵伝」の高精細画像を使用した映像による作品鑑賞コンテンツを制作したほか、「法隆寺献納宝物 伎楽面 迦楼羅・呉女」、「伎楽装束 裳・袍」並びに、着付け体験用の小袖・振袖（「見返美人図 菱川師宣筆」に描かれるきものと帯、「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆」、「重要文化財 振袖 白綾地衝立鷹模様」）の復元模造、「重要文化財 風神雷神図・夏秋草図屏風」「国宝 花下遊楽図屏風」「見返り美人図」の高精細複製品制作を開始した。 ・展示「高精細複製品によるあたらしい屏風体験『平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風』」（10月23日～12月2日）を開催し、来館者アンケートによる満足度調査では91.8%から「とてもよい/よい」の評価を得た。（来館者数カウントなし） ・企画展示「8Kで文化財 国宝『聖徳太子絵伝』」（11月27日～12月25日）を開催し、3,614人がコンテンツを体験した。満足度調査では90.8%から「とてもよい/よい」の評価を得た。 ・展示「高精細複製品によるあたらしい屏風体験『国宝 松林図屏風』」（31年1月2日～2月3日）を開催し、95,177人が参加した。満足度調査では87.2%から「とてもよい/よい」の評価を得た。										
【定量的評価】 項目			30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
体験型プログラム等実施回数※			91回	-	-	-	-	-	-	-
体験型プログラム等参加者数			98,791人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 企業等との連携により、文化財に親しむための新たな複製品の制作やコンテンツ開発を着実に実施しており、展示への活用においては来館者満足度が約90%であるなど、年度計画を十分に達成したといえる。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。										
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って順調に、文化財のレプリカや映像コンテンツを用いた学習機会の提供、学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を推進している。							



「高精細複製品によるあたらしい屏風体験『平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風』」会場の様子

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供 1/3																																
【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (東京国立博物館) ※イ、ウは後述 ア 文化財について分かりやすく理解するための月例講演会・記念講演会・連続講座・ギャラリートーク・教育普及イベント等を継続して実施する。 エ 障がい者や外国人など多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。																																	
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 藤田千織 教育講座室長 丸山猶計 ボランティア室長 鈴木みどり																														
【実績・成果】 (4館共通) (東京国立博物館) ア 「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」では、来館経験の少ない人が当館に対して抱きがちな「敷居が高い」というイメージを払拭すべく親しみやすくわかりやすい内容のガイドツアーを企画した。月例講演会やギャラリートークにおいても展示に即した内容のほかに、博物館アーカイブや資料館の活用など、所蔵作品以外のテーマも加え、文化財について多面的に理解を深められるような学習機会を提供した。 ア、エ 29年度より、外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化との出会い」を企画運営している。外部スタッフの協力を得て、運営を円滑にし、参加者の体験をより豊かにするためスタッフ研修も実施した。参加者の満足度は非常に高く、展示作品に対する関心を高めることにも寄与できた。 エ 聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、大講堂・東洋館ミュージアムシアター・レクチャースペースにヒアリンググループを設置し運用を行った。また音声認識アプリ UD トークを、3月の「博物館でお花見を」関連事業から正式に運用した。																																	
【補足事項】 (4館共通) ア及び(東京国立博物館) ア ・講演会23回 参加者数6,249人 内訳 ①月例講演会12回、参加者数2,822人 ②記念講演会7回、参加者数2,189人 ③シンポジウム1回、参加者数250人 ④テーマ別講演会3回、参加者数988人 ⑤その他講演会0回、参加者数0人 ・列品解説(ギャラリートーク等) 64回、参加者総数5,108人 内訳 ①ギャラリートーク39回、参加者総数4,076人 ②特別展関連ギャラリートーク1回、参加者総数218人 ③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク24回、参加者総数814人 ・連続講座1回(2日) 参加者総数728人 ・公開講座5回、参加者総数121人 ・その他展示に関連する事業66回、参加者総数14,142人 ア、エ 日本文化との出会い「書体験」 36回(36日間)、参加者数4,788人(うち外国人3,620人) 日本文化との出会い「きもの体験」 8回(8日間)、参加者数267人(うち外国人222人) 日本文化との出会い「浮世絵摺り実演」 4回(2日間) 225人 英語通訳実施(うち外国人141人)																																	
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>30年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評定</td> <td rowspan="3">経年 変化</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>講演会等の開催回数</td> <td>93回</td> <td>128回</td> <td>D</td> <td>127</td> <td>146</td> <td>160</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>講演会等の参加者数</td> <td>12,206人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>14,419</td> <td>18,080</td> <td>21,453</td> <td>21,692</td> </tr> </table>									【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29	講演会等の開催回数	93回	128回	D	127	146	160	125	講演会等の参加者数	12,206人	-	-	14,419	18,080	21,453	21,692
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29																									
講演会等の開催回数	93回	128回	D		127	146	160	125																									
講演会等の参加者数	12,206人	-	-		14,419	18,080	21,453	21,692																									
【年度計画に対する総合評価】 評定：B																																	
【判定根拠、課題と対応】 講演会、列品解説、講座等、順調に開催されている。これらは開催回数としては目標に満たなかったものの、ほかにも「その他展示に関連する事業」として各種ツアーや伝統芸能の上演、日本文化体験といった多様な教育普及イベントを積極的に実施した。これらは計66回実施し、14,142人の参加者より好評を得ていることから、総合的にはB評定と判断した。																																	
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。																																	
【中期計画に対する評価】 評定：B																																	
【判定根拠、課題と対応】 「上野の山でサルめぐり」、「博物館でアジアの旅スペシャルツアー」、「保存と修理のツアー」「日本文化との出会い」など、テーマに応じて外部の社会教育関係団体や博物館等との連携協力を行い、さまざまな形式で講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を順調に開催した。																																	



月例講演会



日本文化との出会い

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/3								
【年度計画】 (東京国立博物館) イ 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、19室のみどりのライオン、東洋館2室、6室のオアシス等を教育普及スペースと位置づけ、さらに、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、対象と内容に応じた事業を展開する。 (ア)ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集「親と子のギャラリー サルのひろば」(4月17日～5月20日) ・特集「親と子のギャラリー トーハク×びじゅチューン!なりきり日本美術館」(7月24日～9月9日) (イ)総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(3月13日～4月8日)、「博物館でアジアの旅」(9月4日～9月30日)、「博物館に初もうで」(31年1月2日～1月27日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。 (ウ)体験型プログラムの実施 ・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展に関連した一般向け・ファミリー向け体験型プログラムを実施する。 ・本館19室・本館地下みどりのライオン・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。									
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 藤田千織 教育講座室長 丸山猶計 ボランティア室長 鈴木みどり						
【実績・成果】 (東京国立博物館) イ 総合文化展を中心とした展示や、作品に関連したプログラム等を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。 (ア)特集「親と子のギャラリー サルのひろば」では、サルをテーマにした文化財を展示するほか、映像など補助的な解説パネルを使用し、題箋に記載する名称や解説には平易な言い回しを取り入れた。また三館園をめぐるツアーを実施し、サルの文化史や生態に対する子どもたちの理解を促した。 特集「親と子のギャラリー トーハク×びじゅチューン!なりきり日本美術館」では、描かれた人物や作者に「なりきり」ことをテーマとし、複製や映像、IT技術を活用した参加型展示を実施した。博物館における日本美術の新しい鑑賞方法を提案した。また、ワークシート、ハンズオンプログラムやイベントを通じ、来館者の体験と理解をさらに深めることを目指した。 (イ)講演会、ギャラリートーク、ガイドツアー及びぬりえ、衣装体験、ヨガなどの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。 (ウ)本館19室では伝統模様のスタンプを使った体験型プログラム、作品の工程見本の展示、IT技術を使って作品を知る体験コーナーを、東洋館オアシスではアジアの文化を知る体験コーナーを、平成館考古展示室ではレプリカを用いたハンズオンコーナーを継続運営した。本館地下、東洋館オアシスやシアターでは各種体験型プログラム、ギャラリートーク等を実施した。									
【補足事項】 ・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン!なりきり日本美術館」には103,320人の入場者があった。会場ではワークシート40,000部を配布。ワークショップ「なりきり日本美術館★なりきりガイド」(2回57人)を実施した。 ・「博物館でお花見を」では「花見で一句」として俳句を募り727件の応募のうち一般の部6句、小学生以下の部2句が入選した。 ・体験型プログラムとして、本館19室(171,976人)および東洋館でのハンズオン展示(27,496人)、ワークショップ(33回5,154人)、親と子のギャラリー(74回、103,320人 ※回数とは2企画の合計、人数は「なりきり日本美術館」のみカウント)を実施した。 ・夏休み期間の8月5日に総合文化展(本館、考古展示室)で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」を開催し、未就学児、小中生合計1,955人が参加した。									
【定量的評価】項目		30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
体験型プログラム等実施回数※		702回	-	-	-	-	1,042	827	703
体験型プログラム等参加者数		309,901人	-	-	-	-	198,393	199,167	272,867
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 体験型プログラムを702回実施(309,901人参加)し、年度計画を順調に達成している。加えて今年度夏休み時期の親と子のギャラリーは入場者が10万人を超え、メディアに多く取り上げられた。参加体験型展示に関する調査研究という点でも良い事例となった。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って順調に、外部団体との連携協力を行いながら講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等の学習機会を提供している。これまでの経験を生かしてより充実した事業を目指したい。							



「親と子のギャラリー なりきり日本美術館」会場の様子

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数=回数としてカウントする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1) 学習機会の提供 3/3							
【年度計画】 (東京国立博物館) ウ 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。 ・職場体験の受け入れを継続して行う(中・高校生対象)。 ・教員を対象とした研修等を継続して実施する。 エ 障がい者や外国人等多様な来館者を対象とした教育普及事業のあり方について検討する。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 藤田千織 ボランティア室長 鈴木みどり 教育講座室長 丸山猶計					
【実績・成果】 ウ ・30年度も学校との連携事業を計画通り実施した。スクールプログラムは学年、人数、目的に応じた15のコースを設け、パンフレット、ウェブサイト、教員研修の場で告知し、ウェブサイト、ファックスで申込を受け付けた。児童・生徒の鑑賞体験の充実に寄与し、日本・アジアの伝統文化への関心を高め、理解を促した。 ・職場体験においては、通信制高校や特別支援学級などの参加もあり、参加する学校の幅も広がった。 エ ・外国人来館者をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」を継続的に企画運営した。外部スタッフの協力を得て、運営を円滑にし、参加者の体験をより豊かにするためスタッフ研修も実施した。参加者の満足度は非常に高く、展示作品に関する関心を高めることにも寄与できた。 ・聴覚障がい者がプログラムに参加できるよう、レクチャースペースでヒアリンググループの運用を行った。また音声認識アプリUDトークの導入を行った。								
【補足事項】 ウ スクールプログラム 228校、8,895人(小学校30校904人、中学校128校4,778人、高校68校3,191人、盲学校2校22人) 教員研修 5回、465人 職場体験は中学校11校、高校9校、63人、延べ日数50日間受け入れをした。 エ 日本文化体験「書体験」 36回(36日間)、参加者数4,788人(うち外国人3,620人) 日本文化体験「きもの体験」8回(8日間)、参加者数267人(うち外国人222人) 日本文化体験「浮世絵摺り実演」4回(2日間)225人 英語通訳実施(うち外国人141人)								
								
スクールプログラム実施風景								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
スクールプログラム実施回数	228回	-	-		-	211	227	273
スクールプログラム参加者数	8,895人	-	-		-	8,261	7,910	10,056
職場体験実施回数	20回	-	-		-	19	19	20
職場体験参加者数	63人	-	-		-	60	63	63
教員を対象とした研修実施回数	5回	-	-		-	6	6	6
教員を対象とした研修参加者数	465人	-	-		-	585	235	513
印刷物	177,000部	-	-		-	42,000	30,000	37,000
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 228回のスクールプログラム、20回の職場体験の受入れ、5回の教員を対象とした研修など、学校との連携事業を幅広くかつ順調に実施し、年度計画を達成している。教員研修のうち一回は東京都教職員研修センターとの共同開催で社会科の教員を対象にしたものを開始するなど、教科の幅を広げることに成功している。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 学校や東京都等との連携協力の下、スクールプログラム、職場体験、教員研修などの学習機会の提供を行い、中期計画に順調に取り組んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/2																																		
<p>【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (京都国立博物館) ア 歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。</p>																																			
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 永島明子																																
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 京都国立博物館においては、37回の講演会等を開催した。</p> <p>(京都国立博物館) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「記念講演会」(4月7日、講師：館長 佐々木丞平)ほか、(12回・1,884人)を実施した。 ・「土曜講座」(6月16日、講師：美術室長(兼列品管理室長)羽田聡)ほか、(19回・1,969人)を実施した。 ・「夏期講座(名品を旅するⅢ)」(7月27日～28日、講師：サントリー美術館 学芸副部長 土田ルリ子 ほか5名)(1回・198人)を実施した。 ・「社会科教員のための向上講座」(8月28日、講師：研究員 水谷亜希)(1回・39人)を実施した。 ・「ギャラリートーク「特集展示<謎とき美術!最初の一步>」」(8月19日、講師：研究員 水谷亜希)(2回・92人)を実施した。 ・研究発表と座談会「仏像とその工房をめぐる諸問題」(9月2日、連携協力室長 浅湫毅ほか)(1回・76名)を開催した。 ・国際特別講演会・日本人研究者との座談会(31年1月26日、一郷韓国美術史研究院長 姜友邦ほか)(1回・99人)を実施した。 																																			
<p>【補足事項】 (京都国立博物館) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展期間中の講座を「記念講演会」として12回実施した。 ・土曜講座は大正時代から連綿と続く歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。 ・ギャラリートーク「特集展示<謎とき美術!最初の一步>」は子どもを対象として研究員との対話形式で実施した。 <p>○その他、本実績には含めていないが、キャンパスメンバーズ限定講演会を実施した。(処理番号1313B参照)</p>																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>30年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> <th>経年変化</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講演会等の開催回数</td> <td>37回</td> <td>26回</td> <td>A</td> <td></td> <td>36</td> <td>39</td> <td>45</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>講演会等の参加者数</td> <td>4,357人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>4,596</td> <td>4,845</td> <td>5,132</td> <td>4,014</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29	講演会等の開催回数	37回	26回	A		36	39	45	32	講演会等の参加者数	4,357人	-	-		4,596	4,845	5,132	4,014
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29																											
講演会等の開催回数	37回	26回	A		36	39	45	32																											
講演会等の参加者数	4,357人	-	-		4,596	4,845	5,132	4,014																											
<p>【年度計画に対する総合評価】 評定：A</p>				<p>【判定根拠、課題と対応】 土曜講座は、館内外の専門家(15人)を講師として、目標値以上の事業を実施できた。 20代から30代の各種講座への参加者はこれまで2割程度であったのに対し、特別展「京のかたな」期間中の記念講演会では約6割を占めた。これまであまり多くなかった若い年代の参加者を増やすことができたのは、大きな成果だと言える。</p>																															
<p>【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。</p>																																			
<p>【中期計画に対する評価】 評定：B</p>				<p>【判定根拠、課題と対応】 10年前より継続してきた「社会科教員のための向上講座」はリピーターも多く、教員に定着しており、30年度は特集展示「謎とき美術!最初の一步」の見学を通して、博物館の利用方法や作品の鑑賞に関する教員の積極的な議論が見られた。また、ギャラリートークは想定の2倍以上の参加者があり、概ね好評であった。31年度以降も継続してこれらの事業を実施し、内容の充実に努める。</p>																															

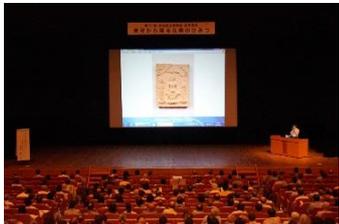


記念講演会
(館長佐々木丞平)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/2							
【年度計画】 (京都国立博物館) イ 京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・ 展覧会鑑賞ガイド・ワークシート(小中学生向けを含む)などを発行する。 ・ 京博ナビゲーターによるミニワークショップ等、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。 ・ 分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 ・ ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。 ウ 教育諸機関等との連携事業を推進する。 ・ 京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 ・ 京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力を図る。 ・ 教員のための講座を開講する。 ・ 他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 永島明子					
【実績・成果】 (京都国立博物館) イ ・ 「さわって発見!ミュージアム・カート」(145日・概算28,710人参加)を実施した。 ・ 特別展開連ワークショップ「指で描こう!指墨画にチャレンジ」(38日・5,427人)、「まちかで見よう!はじめての刀」(49日・11,741人)を実施した。 ・ 「博物館Dictionary」(8回・33,500部(増刷分1回・9,250部を含む))を発行した。 ・ 特集展示「謎とき美術!最初の一步」(38日・41,712人 ^注)を実施した。関連シート「謎ときチャレンジ」及び答え(1回・20,000部・4言語)を発行した。 ウ ・ 「文化財に親しむ授業」(7回・537人)、「おしゃべり鑑賞会」(3回・72人)を実施した。 ・ 「長岡京市立神足小学校教員研修」(1回・20人)、「文化財を教室に!複製を活用した事例紹介と交流会」(1回・25人)、「社会科教員のための向上講座」(1回・39人)を実施した。 ・ スクールプログラム、来館学校団体等への対応(15回・120人)を行った。 ・ 「ミュージアム・キッズ!全国フェアin京都2018」(こども☆ひかりプロジェクト主催)(2回・956人)に参加した。 ・ 「第54回小中学生記者の文化財取材コンクール」(公益財団法人京都古文化保存協会主催)(1回・74人)に協力した。								
【補足事項】 ・ ワークショップ「まちかで見よう!はじめての刀」は安全面への配慮から整理券方式とし、1日132人と限定した。整理券のない来館者は京博ナビゲーターによる刀の紹介を見学できるようにした。整理券による参加は6,306人、見学のみ参加は5,435人であった。 ・ 博物館Dictionaryのうち、29年度に配付した198号(『仏像は何からつくられているの?』)は好評のため9,250部を増刷した。 ・ 第54回小中学生記者の文化財取材コンクールでは、京都市内の小中学生による「博物館のしごと」をテーマとした取材を受け入れ、インタビュー等に協力した。また、京都国立博物館賞を小中学生3人に授与した。								
【定量的評価】								
項目	年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
体験型プログラム等実施回数※	482回	-	-	経年変化	-	268	553	467
体験型プログラム等参加者数	47,198人	-	-		-	16,200	21,333	282,014
スクールプログラム実施回数	15回	-	-		-	10	7	9
スクールプログラム参加者数	120人	-	-		-	378	344	93
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数	7回	-	-		-	7	7	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数	537人	-	-		-	658	931	626
教員を対象とした研修実施回数	3回	-	-		-	12	3	3
教員を対象とした研修参加者数	84人	-	-		-	1,080	106	92
印刷物	53,500部	-	-		-	70,000	41,300	116,000
【年度計画に対する総合評価】 評定:A					【判定根拠、課題と対応】 特別展開連ワークショップでは、看板類や解説プリントを4言語で作成することで、29年度実施のワークショップに比べ、海外からの来館者の参加を約1.5倍に増やすことができた。また、年度計画にはない教育普及を目的とした特集展示「謎とき美術!最初の一步」を実施し、研究員によるギャラリートークでは、92名の参加者があった。4言語の謎ときシートを用いて作品を鑑賞することで、子どもだけではなく、普段日本の古美術に馴染みのない方や海外からの来館者が古美術を楽しみきっかけに繋がった。			
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定:B				【判定根拠、課題と対応】 文化財ソムリエによる「文化財に親しむ授業」は、事業開始から9年目を迎え、ノウハウが蓄積されたことで年々授業の質が向上している。また、京博ナビゲーターの活動は、第2期の活動が2年目を迎え、安定した活動を行うことができている。 課題としては、複製文化財の貸出事業において、年々希望が増加しており、従来の対応が難しくなっている。31年度以降はより明確な方針を定めていく必要がある。				

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数=回数としてカウントする。

注)一部のプログラムでは当該期間の入館者数で参加者をカウントしているため、それについては年度実績の合計値には含まない。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (奈良国立博物館) ア 講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。 ・展覧会において親子を対象とした講座やワークショップを実施する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 谷口耕生					
【実績・成果】 (4館共通) ア 30年度は講演会等を27回実施した。 (奈良国立博物館) ア 講座等の開催 ・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計1,238人の参加があり、アンケート結果で平均満足度88%を得た。 ・公開講座は3つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に14回実施。計1,853人の参加があり、平均満足度88%を得た。 「正倉院学術シンポジウム2018 正倉院宝物と新羅」を11月3日に実施。227人の参加があり、平均満足度96%を得た。 ・夏季講座は「素材から探る仏像のひみつ」と題し、奈良県文化会館を会場に8月22日～24日の3日間実施。講師は8人、478人の参加があった。 ・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「粥」の会』を31年2月11日に実施し、36人の参加があった。 ・特別陳列「覚盛上人770年御忌鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」では、関連イベントとして親子ワークショップ「オリジナルうちわ作り」を実施し、計25人の参加があった。 ・文化財保存修理所の特別公開を31年1月10日に3回実施し、計124人の参加があった。 ・第70回正倉院展では、10月28日に「親子鑑賞会」を実施し、160人の参加があった。								
【補足事項】  夏季講座「素材から探る仏像のひみつ」会場風景								
【定量的評価】 項目	30年度実績	目標値	評価	経年 変化	26	27	28	29
講演会等の開催回数	27回	28回	C		27	28	26	26
講演会等の参加者数	3,569人	-	-		3,525	3,974	3,518	3,437
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 講演会等の開催回数が目標値を若干下まわっているが、ほぼ当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、夏季講座・正倉院シンポジウムの募集に導入したインターネット予約システムが軌道に乗り、大きなトラブルも無く例年どおり多数の参加者数を得ることができた。さらに29年度同様アンケートにみる満足度も高かったことから左記の評価とした。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展等に関連した公開講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートーク、小学生等を対象としたワークショップ・親子講座を開催し、特に夏季講座・公開講座は高い満足度を達成でき、仏教美術のコアなファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。また『お水取り「講話」と「粥」の会』では東大寺の協力により歴史・伝統文化に触れられる機会を提供することができ、中期計画は順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/2							
【年度計画】 (奈良国立博物館) イ 小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 ウ 奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してESD(持続発展教育)プログラムの開発を引き続き行う。 エ 地下回廊の学習端末機で名品のハイビジョン映像等を引き続き公開する。 オ 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を引き続き公開する。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	臣守常勝				
【実績・成果】 (奈良国立博物館) イ ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信した。 ・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付し、定期的な博物館情報の提供を行った。 ・世界遺産学習事業を、奈良市内の公立小学校5年生(26校1,791人)に対して実施した。 ・中学校の職場体験で1校3人(2年生)を受け入れた。 ウ ・奈良市教育委員会との連携事業による世界遺産学習の一環として、仏像館見学や仏像クイズを通じて地域の文化遺産について親子で学ぶESD(持続発展教育)プログラム「親子で学ぼう奈良の仏像」を7月25日・26日に実施した。 ・修理完成記念特別展「糸のみほとけ—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏—」に関連した事業として、親子ワークショップ「織ってみよう!糸のみほとけ」を奈良教育大学との連携事業として7月29日に実施した。 エ 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。 オ 地下回廊で仏像模型とパネルを引き続き設置し、文化財に関する情報を公開した。								
【補足事項】 オ 地下廻廊に設置したパネルは文章の多言語化に対応し、写真撮影も可能としており、外国人観光客の仏像理解を促進出来るよう配慮した。								
								
					仏像解説パネル			
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
体験型プログラム等実施回数※	28回	-	-	経 年 変 化	-	23	21	26
体験型プログラム等参加者数	436人	-	-		-	380	384	399
スクールプログラム実施回数	13回	-	-		-	8	24	20
スクールプログラム参加者数	747人	-	-		-	390	1,701	1,001
職場体験実施回数	1回	-	-		-	4	3	3
職場体験参加者数	3人	-	-		-	9	7	6
世界遺産学習実施学校数	26校	-	-		-	37	25	32
世界遺産学習参加者数	1,791人	-	-		-	2,440	1,542	2,022
音声ガイド	1,221台	-	-		-	816	770	1,010
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、奈良市教育委員会との連携事業であるESDプログラムや特別展に関連したワークショップ等を実施することにより、幅広い年代が楽しく学ぶことができる学習機会を提供し、地域の文化遺産や仏教美術等についての理解促進に寄与することができた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 講演会、学校団体へのプログラム、並びに他機関と連携協力した各種ワークショップ等を実施し、様々な内容の学習プログラムを提供することができ、中期計画は順調に進んでいる。							

※平成28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数=回数としてカウントする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/3							
【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (九州国立博物館) ※エ、オは後述 ア 特別展記念講演会を開催する。 イ シンポジウムを開催する。 ウ ミュージアムトークを継続的に実施する。 カ 文化交流展(平常展)に関連した教育普及事業を実施する。 ・夜間開館時の教育普及活動を実施する。 ・潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施する。 キ 特別展に関連した教育普及事業を実施する。 ク 文化施設等へ講師を派遣する。								
担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長 白井克也 課長 山野孝					
【実績・成果】 (4館共通) ア 講演会を18回開催した。全国各地の高校生による歴史学研究成果を対外的に発信する場として「全国高等学校歴史学フォーラム2018」を開催し、パネルセッション・ワークショップを実施するとともに、参加生徒相互の交流を促進した。 (九州国立博物館) ア 特別展記念講演会を2回開催した。 イ 大宰府史跡発掘50年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器ー東アジアの響銅ー」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」等、シンポジウムを6回開催した。 ウ 展示への理解を深めることを目的として、ミュージアムトーク(展示解説)を日中と夜間に週交替で行った。「夜のミュージアムトーク」では、ハンズオン資料等を用い、様々な年齢層に親しみやすいものとしたことでファミリー層の参加が増加した。 (実施回数:62回、参加人数:昼1,460人、夜715人) カ・夜間開館イベントとして、毎月第1土曜日の18時より「夜のバックヤードツアー」を実施した。博物館の重要な機能である「守る」「運ぶ」「展示する」を伝えるため、クイズ等を取り入れながら探検形式で行った。(実施回数:10回、参加人数:690人) ・夜間開館時に展示作品をスケッチする「スケッチナイト☆」を3回実施した。研究員による解説も行った。(実施回数:3回、参加人数:合計73人) ・弥生時代の米作りを演劇で紹介する「弥生人現る!!~101回目の米作り」を文化交流展示室内で実施した。 ・文化交流展(平常展)に関連した教育普及事業として、潜在的利用者獲得のための活動「きゅーはく女子考古部」を実施した。 ○弥生時代~平安時代までの衣装を着る体験ワークショップ「Back to the KODAI」を実施した。 ○特集展示「全国高等学校考古名品展2018」にあわせ、なりきり考古学者体験ワークショップを2回実施した。 キ 特別展で、わかりやすい解説パネルや体験コーナー等を設置した。 ク 特別展開催時に、筑紫野市歴史博物館、アクロス福岡等に講師を派遣し、特別展に関する講演を行った。								
【補足事項】 (九州国立博物館) カ・文化交流展2テーマ「稲づくりから米づくり」の小テーマ「農耕社会の出現」で展示されている弥生時代の農具の使い方などを演劇で紹介。2部構成で、第1部は展示されている文化財の前で当館研究員扮するお米博士が縄文時代と弥生時代の稲作の違いや、農具について解説した。第2部では、縄文時代の稲作しか知らない主人公が弥生時代の米作りを成功させるストーリーの演劇。劇団員2人と当館研究員1人、計3人で演じた。2日間、6回(昼間4回、夜間2回公演(参加者:2日間計約400人)) ・今年で4年目となるきゅーはく女子考古部は、募集定員20人に対し、61組66人の応募があった。毎月1回考古学に関する活動を実施。5月から8月までは九博主導の活動を実施、9月から1月は部員による自主企画として、古代アクセサリー作り、古代食作り、発掘体験などを行った。3月には活動成果の発表として一般人を対象としたイベント「古代の宴へようこそ!」を実施した。また、30年に引き続き他自治体とのコラボ企画として「ひろかわ古墳まつり」(福岡県八女郡広川町)に参加し、ワークショップやファッションショー等を行った。さらに、活動を記録した冊子「女子の考古学のススメ」を作成し、「古代の宴へようこそ!」の参加者及び考古関係機関に配布した。(参加者:約300人) ○貫頭衣、古墳時代の衣装、平安初期の衣装を着るワークショップを5月3日、4日に実施した。年齢を問わず人気で、外国人の参加者も多数見られた。(参加者:約100人) ○ワークショップは平板測量を実施。(参加者:2日間計18人) キ・「オークラコレクション」展、「京都 醍醐寺」展において教育普及プログラムを実施した。どちらもイラストを交えたわかりやすい解説パネルを設置した。「オークラコレクション」展では、「自在螭螂置物」のレプリカを制作し、自在の動きをさわって体感するコーナーを設けた。								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
講演会等の開催回数	80回	90回	C		82	87	77	84
講演会等の参加者数	4,491人	-	-		4,694	6,212	5,369	6,299
【年度計画に対する総合評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 講演会等の開催回数については、特別展開催数の減少により目標値を達成できなかったが、例年どおり講演会、シンポジウム、ミュージアムトーク等を実施できた。文化交流展示室内では、展示解説及び職員参加の演劇を組合せての斬新な教育普及事業が実施できた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定: B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、学習機会を提供できた。今後も、様々な展示テーマに応じた新たな教育普及の手法を開拓したい。31年度は移動博物館車両が導入されるため、アウトリーチ活動を充実させていく予定である。							



演劇「弥生人現る!!」の一場面

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/3							
【年度計画】 (九州国立博物館) エ 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。								
担当部課	交流課 学芸部企画課		事業責任者	課長 山野孝 課長 白井克也				
【実績・成果】 (九州国立博物館) エ ・「なりきり考古学者(拓本)体験」「なりきり考古学者(実測図作成)体験」「なりきり学芸員体験」「ガムランワークショップ」「馬頭琴ワークショップ」など各種ワークショップを館内で実施したほか、「きゅーはくきやらばん」と名付けたアウトリーチ活動を継続的かつ積極的に行い、子ども達を中心に幅広い層に向けて体験活動の機会を提供した。 ・体験型展示室「あじっば」では、アジア諸国の文化を紹介するとともに、アジア諸国の文化の類似性や相違性について理解を深める体験学習プログラムを行った。また体験資料であるBOXキットにおいては、「韓服を作ろう」「韓国のお面を作ってみよう」「ワヤンクリの乾拓」など新しいキットを開発・作成した。								
【補足事項】 ・アウトリーチ活動として「きゅーはくきやらばん」を26回実施した。当館所有の体験型コンテンツを中心に、新規に開発したプログラムを提供した。福岡県立少年自然の家「玄海の家」や大野城市立心のふるさと館、鹿島市民図書館やゆめ佐賀大学佐賀校、京都市みやこめっせや横浜タカシマヤ、南相馬市体育館や熊本県立装飾古墳館などでワークショップを行った。 ・7月29日(日)に実施した公開型ワークショップ「行こうよ!あじっば夏祭り」は、台風の影響で開催時間を1時間短縮したものの、632人が参加。「アジアの民族楽器にふれてみよう」「拓本体験しよう」「花文字を描こう」「世界のコマであそぼう」の4つのワークショップを提供した。 ・あじっば入口横ディスプレイでは2回の特集展示を実施した。(「青と白の陶磁器」「国々の装い」) ・あじっば内では10回の展示替えを実施した。(「昔話と切手」「アジアの民族衣装を着てみよう」「モンゴルの生活」「針開書の世界」「張子と達磨」など) ・文化交流展示室内で「弥生人現る～101回目の米作り」と題した参加体験型の学習プログラムを2日間で計6回実施し、高い満足度をえた。								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
体験型プログラム等実施回数※	1,873回	-	-	-	-	639	2,143	2,041
体験型プログラム等参加者数	4,914人	-	-	-	-	8,860	7,796	8,651
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 「弥生人現る」「なりきり考古学者体験スペシャル」など、展示室内での参加体験型の学習プログラムを複数回実施し、多くの方に参加いただくことができた。31年度以降も継続的に「九博らしい」プログラムを企画・運営していきたい。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 東日本大震災後、被災地支援の一環として、東北地方の子ども達に様々な参加型の体験活動プログラムを提供している「子ども☆ひかりプロジェクト」と連携して、複数のワークショップを実施してきた。8月に京都市勧業館みやこめっせで行われた“ミュージアムキッズ!全国フェア”には全国から40のミュージアムが参加し、子ども達に各種ワークショップを提供した。また、あじっばのコンテンツを利用して実施するワークショップ「きゅーはくきやらばん」は、県内外のミュージアムや学校で計26回実施した。31年度も他館との連携協力を深めていく予定である。							

※28年度より、一定期間通して実施した事業については、期間の日数=回数としてカウントする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 3/3							
【年度計画】 (九州国立博物館) オ 学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験(中学生)の受け入れを実施する。 ・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。 ・きゅうはくきゃらばん(移動博物館事業)の活動の充実を図る。 ・福岡県教育委員会及び(公財)九州国立博物館振興財団と連携して、小中学校を招き、様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業を実施する。								
担当部課	交流課	事業責任者	課長	山野孝				
【実績・成果】 (九州国立博物館) オ ・職場体験(中学生)を18校、82人(のべ34日間)受け入れた。 ・高校生を対象としたジュニア学芸員体験事業を3月3日、10日、17日、24日の4日間で実施し、なりきり学芸員体験や接客体験など全4講座を開講した。 ・福島県や栃木県、岐阜県など10校の高校生を招き、歴史学研究成果を対外的に発信する場として「全国高等学校歴史学フォーラム2018」を開催した。パネルセッションや打製石器を使った調理実験を行うと共に、参加生徒の相互交流を図った。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、40件・62パックの貸し出しを行った。 ・学校教育活動支援事業は、47校・3,452人の児童生徒に対して実施した。								
【補足事項】 ・27年度から始まった全国高等学校歴史学フォーラムは、考古学から歴史学へと内容を変え、またステージ発表からパネルセッションへと形式を変えながら実施してきた。歴史系の部活動は全国的な発表の機会が少なく、これが歴史系の部活動の衰退の一因となっている。九博主催でフォーラムを継続することで、主体的に歴史を学ぶ高校生の情報発信の場を確保するとともに、高校生のキャリア教育の一助としたい。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」も製作から13年目となり、破損のため貸出できないパックが増えてきた。31年度は、破損したコンテンツを修復・補充し、より効率的な貸出を行う予定である。								
【定量的評価】								
項目	30年度実績	目標値	評価		26	27	28	29
学校教育活動支援事業実施回数	47校	-	-	経年変化	-	13	18	27
学校教育活動支援事業参加者数	3,452人	-	-		-	1,251	625	1,612
出前講座実施回数	5回	-	-		-	6	6	6
出前講座参加者数	151人	-	-		-	370	179	104
職場体験等の実施回数	18校	-	-		-	32	17	20
職場体験等の参加者数	93人	-	-		-	117	87	92
教員を対象とした研修実施回数	3回	-	-		-	12	4	4
教員を対象とした研修参加者数	25人	-	-		-	167	73	25
「きゅうぱっく」貸出件数	40件	-	-		-	47	47	33
印刷物	20,000部	-	-	-	175,000	145,000	-	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 学校教育活動支援事業では学校担当者とプログラムの紹介・打ち合わせを密に行い、予定どおり実施することができた。 歴史学フォーラムではパネルセッションの形を導入したことにより、参加生徒の主体的な活動をサポートすることができた。 教員研修に関してはさらに参加者が増加するよう、広報と内容検討に努力していきたい。				
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 学校教育活動支援事業は、29年度より20校増やし、小中学校合わせて47校・3,452人が参加した。博物館ガイダンスだけでなく、バックヤードツアーやガイド付きの展示室観覧などのコンテンツで、児童生徒に博物館を楽しんでもらうことができた。31年度は移動博物館車「きゅうはく号」によるアウトリーチ活動と並行しながら、進めていきたい。				



学校教育活動支援事業
博物館ガイダンスの様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。 イ 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を継続して実施する。 ウ 自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。 エ スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。 オ ボランティアデーなど、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鈴木みどり					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 外国人来館者に対しての「日本文化体験」補助や、親子のギャラリーの「浮世絵擦り体験」など、期間限定のプログラムに対しても、積極的にご案内や体験の補助などを行った。 イ ささまざまな障がいをもつ来館者への意識を高め、通常の活動やバリアフリー班の活動を通して実施した。 ウ 自主企画グループは、引き続き16グループが活動した。 エ スクールプログラム「はじめての東博」を引き続きボランティアが実施した。 オ 「ボランティアデー」「留学生の日」「キッズデー」「博物館でアジアの旅」「博物館でお花見を」では、各自企画グループが対象や内容にあわせ、いつものガイドとは違った工夫を凝らしてガイドツアーを行った。								
【補足事項】 ア ボランティアに対する研修を行った。(55回、解説会3回) イ 点字パンフレット制作7冊、盲学校対応2回、バリアフリー班36人 ウ 「近代の美術」グループが人数不足のため7月から9月まで休止し、10月から再開した。以降、安定した運営を行っている。 ボランティアによる総ガイド回数363回、参加人数13,739人 エ ボランティアによる対応数29校。 オ・「博物館でアジアの旅」では「考古グループ」が初参加し、平成館考古展示室から東洋館に場所を移して「アジアの考古」の案内をした。 ・「留学生の日」では、英語やわかりやすい日本語ガイドに加え、中国語圏の留学生や来館者が増えていることから、東京国立博物館では初めての中国語による「浮世絵ガイド」を行い、好評を博した。 ・「博物館でお花見を」にも「考古グループ」が初参加し、考古展示室の桜や花に関連する作品紹介にあわせ、館内通路からみられる桜の紹介をした。								
								
「留学生の日」のガイドの様子								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
ボランティアの受入人数	149人	-	-		173	173	169	151
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に従い、ボランティアへの活動支援を行った。 また、ボランティアによる自主性や創造性を重んじ、各自の工夫や挑戦を奨励したことで、新規内容のガイドツアーを実施することができた。特に、増加する中国語圏の来館者のために、初の中国語によるガイドツアーを実施に導き、盛況を得た。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 多様な来館者を対象とした教育活動や来館者サービスのために、ボランティアによる外国人対応、学校対応、障がい者対応のための研修や活動の機会を増やし、順調に中期計画を進めている。今後も、ボランティアの特性を生かし、来館者に合わせたきめ細やかな対応ができるよう、ボランティアの活動支援を進めていく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 教育普及補助ボランティア(京博ナビゲーター)活動の充実を図る。 イ 調査・研究補助ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を図る。 ウ 文化財に親しむ授業講師(文化財ソムリエ)として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 数馬厚人 教育室長 永島明子					
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア ・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会(4回)を実施した。 ・京博ナビゲーターに対して普段の活動の意欲向上と相互に交流を深めることを目的とした感謝会を実施した。(1回) ・京博ナビゲーター(202人)が下記の活動を行った。 ①平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動(145日・概算28,710人) ②特別展「池大雅」ワークショップ「指で描こう!指墨画にチャレンジ」(38日・5,427人) ③特別展「京のかたな」ワークショップ「まちかで見よう!はじめての刀」(49日・11,471人) イ ・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。(28人) ウ ・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(20回) ・文化財ソムリエ(19人)が以下の活動を行った ①京都市内の小中学校への訪問授業(7回) ②京都市中学校総合文化祭における「おしゃべり鑑賞会」(3回) ③「文化財を教室に!複製を活用した事例紹介と交流会」での事例発表(1回) ④「ミュージアムキッズ!全国フェアin京都2018」への参加(2回) エ ・「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。(15人)								
【補足事項】 ア 京博ナビゲーターはそれぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、玉眼模型や銅鐸複製などのハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。また、特別展「池大雅」、「京のかたな」では、関連ワークショップを毎日実施し、合計17,168人の参加があった。 ウ 文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア(19人)に対して、当館研究員がスクーリングを20回実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、学校への複製貸出・助言、他館活動の調査なども精力的に行った。								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年	26	27	28	29
ボランティアの受入人数	264人	-	-	変化	210	214	215	270
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき教育普及補助活動の充実を図ることができた。その他、ボランティア活動の充実を進め、育成等も実施した。ボランティアは29年度と同程度の人数を受け入れた。京博ナビゲーターは29年9月に第2期を受け入れて、30年度で活動2年目となった。活動時間内外でナビゲーター同士の積極的な交流が見られ、ナビゲーター自身の成長にもつながっている。一方、土日祝日など教育室の目が届かない時の対応など、活動開始当初からの課題が残されている。 31年度は第3期ナビゲーターの受け入れの準備が始まるため、この課題について解決策を模索していきたい。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 京博ナビゲーターの活動は、教育活動の充実及び来館者サービスの向上に寄与しており、京博ナビゲーター自身の生涯学習にも繋がっている。また、文化財ソムリエの活動は、小中学生への教育普及及び文化財ソムリエ自身の成長に寄与している。今後もこれらの活動を継続して進めていくとともに、活動内容の質の向上を図りたい。							



翔鷲小学校での訪問授業

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア ボランティア新制度3期目の初年度として、ボランティアの各グループ(世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ)の活動の円滑化を図る。 イ ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。 ウ 勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 エ ボランティアが自主的に実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。								
担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長(兼副館長)	湊公夫				
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア ボランティア新制度3期の初年度にあたり、世界遺産グループ(52人)、解説グループ(56人)、サポートグループ(51人)の3つがそれぞれ充実した活動を行った。世界遺産学習として奈良市の小学5年生(26校1,791人)のほか、学校プログラムとして県内外の幼稚園～高校生の生徒を受け入れた(13校747人)。奈良市教育委員会と共催で「親子で学ぼう 奈良の仏像」を夏休みに実施した(2日間)。この事業では、ボランティアが半年間の打合せと練習を行った。また、名品展(平常展)では、要所にデスクを設け、年間を通じて、質問の対応等を行った(合計1,602回)。また、「なら仏像館」ツアー解説を7月より、マイクやイヤホン等の機器を使用する新たな形態での実施を開始し、開館日の毎日基本2回実施した(417回、2,128人)。さらに上記の案内の活動に加え、講座やイベント等の補助業務を担当した(77回)。3つのグループ合同で、正倉院展会期中に、講堂ボランティア解説を実施した(17日、77回)。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1か月間の練習立会と指導をした。 イ ボランティアに対して、名品展研修を行う(17回)とともに、特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した(5回)。 ウ ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施した(25回)。スキルとチーム力の向上を目指し、毎月テーマを設けて指導した。解説グループでは、オブザーバーとして各分野の担当研究員が立会、指導した(7回)。 エ ボランティアによる自主企画として当館敷地内の茶室庭園の案内散策ツアーを実施した。また、ボランティア通信誌を発行してボランティア間の情報共有に努めた。								
【補足事項】 ア ・奈良市教育委員会との共催事業「親子学ぼう 奈良の仏像」は、2日間で50組の親子が参加(118人)。 ・なら仏像館ツアー解説は、開館日毎日11時と14時に実施した(417回)。 ・特別陳列「お水取り」のツアー解説を31年3月に実施した(27回)。 ・年間を通じ、講座及びイベント等の館事業の支援・補助を行った(77回)。 ・第70回正倉院展の講堂ボランティア解説は17日間77回で、聴講者数は11,039人であった。ボランティアの活動人数は89人であった。 イ ボランティアと博物館の意思疎通をはかるため、ボランティア会議を定期的実施した(9回)。 エ ・ボランティア通信誌「ブリッジ」を3回発行した。 ・庭園散策ツアーを11月に、仏教美術資料研究センター見学会を3月に、合計4回実施した。庭園散策ツアー並びに仏教美術資料研究センター共に2日間に渡り実施し、庭園散策ツアーの参加者は69人、仏教美術資料研究センターの入場者数は1,926人であった。 ・ボランティア親睦会を12月に実施した(参加は職員含む131人)。								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
ボランティアの受入人数	159人	-	-		110	157	150	143
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新ボランティア制度の3期目の初年度にあたる30年度は、159人のボランティアを受け入れ、研究員による名品展(平常展)研修(17回)、特別展・特別陳列研修(5回)を実施するなど、ボランティア事業の資質の向上を図るための取り組みを計画通り実施した。また、ボランティアにより、世界遺産学習(26校1,791人)、名品展デスクにおける質問対応(延べ1,602回)、正倉院展解説(17日間77回)等を実施する等、ボランティア事業を年度当初計画の通り、進める事が出来ているものと考えられる。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ボランティアによる、世界遺産学習、ツアー解説、庭園ツアー、正倉院展解説等はそれぞれの参加者から高い評価を得ている。また、奈良市教育委員会との共催親子向け講座「親子で学ぼう 奈良の仏像」は29年度に実施した同内容の親子向け講座「親子で学ぼう 博物館」と比較して、参加者が増加する等、好評を博すものとなり、教育活動の充実に貢献している。加えて、ボランティア自主企画による庭園見学ツアーも参加者が69人に上る等、人気を得る行事となり、来館者サービスを向上させる一つの要因となっていると考えられる。今後も引き続き、こうした事業を計画・実施し、教育活動の充実を図る。							



奈良市世界遺産学習の実施風景

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (九州国立博物館) ア ボランティアの自主的活動を支援し、それぞれの部会(展示解説・教育普及・館内案内(日本語、英語、中国語、韓国語)・環境・イベント・資料整理・サポート・学生・フィールド・手話)の活動の充実を図る。また、内外から講師を招聘し、ボランティアとしての自覚を促し、責任感を高める研修や、所属する部会の専門性を高める研修を行う。								
担当部課	交流課	事業責任者	課長 山野孝					
【実績・成果】 (九州国立博物館) ア 1) 第5期ボランティア(2年目)を中心とした主体的な活動を重視することによって、来館者サービスのための自主研修会が積極的に行われ、館内案内時の提示資料やボランティア主催のワークショップのコンテンツが充実した。 2) 部会の垣根を越えた研修や交流会を取り入れたことで、ボランティア同士の交流を深めることができた。 3) ボランティア主催のイベントやワークショップ等においては、館の規則や方針を十分伝えようとして、企画したボランティアの主体性・自主性を尊重するよう努めた。								
【補足事項】 1) 5期ボランティア(2年目)と、4期ボランティア(5年目)の登録数はほぼ半々であるが、活動日等、バランスよく配置したことで来館者対応に余裕が生まれている。また30年度は九州国立博物館振興財団が支援するグループ活動(ボランティア部会の枠を超えた研修グループ)に「ワークショップ開発グループ」が新たに創設され、古代文字スタンプづくりなどの新たなコンテンツが生み出された。 ・各期ボランティア数 第4期ボランティア(25年4月より活動)数 143人(任期制ではない手話部会含む) 第5期ボランティア(29年4月より活動)数 152人(同上) ・通常の活動においては、1日平均30~50人、1か月平均のべ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動。 ・日常の活動は、館内案内、あじっば(体験型展示室)における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM(総合的生物管理)活動や、土日を中心とした手話通訳による案内。 [ボランティア対応数](事前申込・当日受付の総数) 展示解説: 8,542人 館内案内(含手話): 10,545人 バックヤード: 3,651人 2) 活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修(視察・交流等)を実施した。 [主な研修] 障がい者接遇、館内案内多言語講座、古代韓国歴史講座、IPM関連講座、救命救急講習等 [主な館外研修先] 北九州市立いのちのたび博物館、武雄市図書館、田川市石炭・歴史博物館、西南学院大学博物館、行橋歴史資料館等 3) ボランティア主催イベントにおいては、他館への視察で得たヒントをもとに、さまざまな分野でのワークショップを開発した。アウトリーチ活動(「きゅーはくきやらばん」と併せ、多くの児童生徒たちに好評を博している。 [実施したイベント等] 「エコエコワークショップ」(8月11日、11月23日、31年2月10日)、「伝統手芸ワークショップ」(9月16日)「折り紙イベント」(10月14日)、「第11回九博子どもフェスタ(12月22日)」「どんぐりクエスト」(11月3日)								
【定量的評価】								
項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
ボランティアの受入人数	295人	-	-		352	352	307	313
【年度計画に対する総合評価】 評定: B				【判定根拠、課題と対応】 ボランティアの自主的活動を支援するというスタンスのもと、各種研修を企画・実施したことで、ボランティアとしての資質の向上を図ることができた。また、30年度も九州国立博物館振興財団支援事業のグループ活動を継続したことで、部会の枠を超えたつながりを意識した活動が増えている。 毎月開催のボランティアの定例会議で、先々の館のスケジュールを提供したことで、自主的かつ積極的に活動に参加するボランティアが増えている。				
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評定: B				【判定根拠、課題と対応】 30年度は、学校との連携事業(学校教育支援事業など)の受け入れが29年度よりも増加し、ボランティアが来館者に関わる機会がより多くなった。31年度には移動博物館車が導入される。一つひとつの派遣依頼に十分対応できるよう、「職員対応の事案」「ボランティア対応の事案」の住み分けを行うとともに、職員とボランティアが連携を密にし、余裕をもった対応策を構築していきたい。また、他県の施設や他館で活動するボランティアとの交流会についても継続させ、31年度以降も様々な視点からのボランティア活動が展開できるよう支援していきたい。				



ボランティア主催ワークショップの様子



他館への視察研修の様子
(北九州市立いのちのたび博物館)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア インターンシップを継続して実施する。 (東京国立博物館) ア キャンパスメンバーズを対象とした「博物館講座」、「博物館セミナー」を実施する。 イ 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 伊藤信二					
【実績・成果】 (4館共通) ア 加入校数56校(内訳 法人:3、大学:46、専門学校:2、学部:5)が本制度を利用し、20,944人の学生、643人の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、11,029人の学生が利用した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、11部署で10~30日の活動を行い、18大学22人が修了した。 (東京国立博物館) ア・キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の役割、運営、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について実践を交えた「博物館セミナー」を実施した。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般の実習機会を提供する「博物館学講座」を開催した。 ・日本大学芸術学部と共同で柳瀬荘アートプロジェクトを実施。 イ 東京藝術大学大学院インターンシップを30年度も採用し、総合文化展のギャラリートークを実施した。 ○ 大学、専門学校からの団体見学申込に対し、自由見学前にレクチャーを提供し、13校482人に対応した。								
【補足事項】 (東京国立博物館) ア・キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象とした博物館セミナー(9月5日、参加 26大学・88人) ・キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした博物館学講座(9月3日~7日、参加 19大学・33人) ・日本大学芸術学部 柳瀬荘アートプロジェクト(11月15日~12月1日) テーマ「仮構の空間/仮像の彫刻」 参加アーティスト23人、来場人数470人								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	26	27	28	29
キャンパスメンバーズ加入大学数	56校	-	-		44	48	52	53
インターンシップ参加者数	22人	-	-		-	23	22	26
見学対応実施回数	13回	-	-		-	12	14	22
見学対応参加者数	482人	-	-		-	275	480	571
その他事業実施回数	1回	-	-		-	1	1	1
その他事業参加者数	88人	-	-	-	37	36	27	
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ(56校)及びインターンシップ(22人)による大学等との連携を継続して実施しているほか、東京藝術大学等との連携事業に順調に取り組んでいる。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与しており、今後も継続していく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (京都国立博物館) ア 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 数馬厚人 上席研究員 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ制度を継続し、大学等との連携を図り、以下の取組などにより新規に3校が加入した。 ・30年度より新たに教職員を特典の対象に加え、また、29年度よりも特別展観覧料の割引額を大きくした。 ・会員を対象とした講演会を新規に実施した。 ・公式キャラクター「トラりん」が加入校を回り、制度の特典を広報した。 (京都国立博物館) ア 京都大学大学院人間・環境学研究科の教員として、宮川禎一(考古)、山川暁(染織)、浅湫毅(彫刻)、大原嘉豊(宗教絵画)の4人が大学院生(修士・博士課程在籍者)に対して、博物館内で文化財をテーマに講義・ゼミを行った。受講学生はのべ12人である。								
【補足事項】 (4館共通) ア 「特別展『京のかたな』キャンパスメンバーズ限定講演会」(10月19日、11月16日 講師：主任研究員 末兼俊彦)(2回・319人) (京都国立博物館) ア ・学芸部研究職員は客員教授2人(宮川・山川)、客員准教授2人(浅湫・大原)の体制で研究指導を行った。また、修士・博士課程1人については、論文作成の指導を適宜行った。 ・京都大学留学生のための文化財講座を31年1月9日に開催した。午前中に会議室で座学、午後は展示場で作品解説付きで見学した。参加者18人。(宮川)								
【定量的評価】項目								
	30年度実績	目標値	評価		26	27	28	29
キャンパスメンバーズ加入大学数※	32校	-	-	経 年 変 化	29	29	27	29
インターンシップ参加者数	1人	-	-		-	2	3	2
連携講座参加者数	6人	-	-		-	6	6	6
見学対応実施回数	1回	-	-		-	2	2	3
見学対応参加者数	25人	-	-		-	41	35	40
その他事業実施回数	23回	-	-		-	1	22	22
その他事業参加者数	349人	-	-		-	22	52	27
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、利用者にとってより有意義な制度となるよう教職員を特典に加え、会員対象の講演会を開催するなど、特典の見直しや広報活動を行い、新たに3校の加盟校を増やすことができた。 京都大学連携講座による大学院生に対しては、文化財の実物教育を行うことで、博物館ならではの研究指導を行うことができた。 京都大学の留学生に対して文化財学習の講座を開催し、日本文化の理解を促進することができた。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズは加入校が増え、計画通りに大学等との連携ができています。今後も継続して制度の広報や見直しを図り、より多くの学生・教職員に利用される制度を目指す。 京都大学連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材育成に貢献していく。							



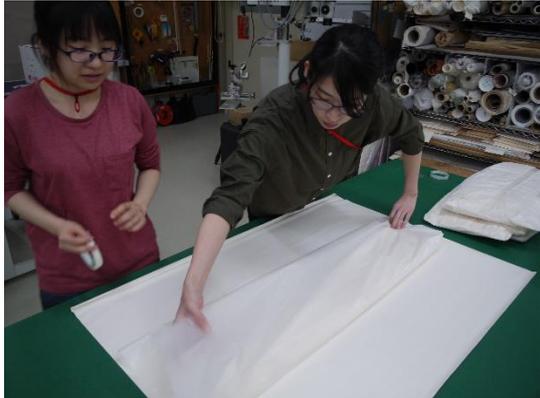
キャンパスメンバーズ
限定講演会

※奈良国立博物館との共通加入校含む

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア インターンシップを継続して実施する。 (奈良国立博物館) ア 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する(大学院生対象)。 イ 大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	臣守常勝				
【実績・成果】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、30年度までで入会校数は28校となり、加入大学とは連携を継続した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 立命館大学にてインターンシップの募集を行ったが、30年度は希望する学生がおらず、実施することができなかった。 (奈良国立博物館) ア ・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座(日本アジア文化情報学講座)に学芸部研究員1人を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。受講生は前期1人、後期1人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座(文化資源論講座)に、学芸部の研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講生は、修士課程、博士課程の大学院生6人であった。 イ 京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(10月1日)								
【補足事項】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し親子向けワークショップ「織ってみよう!糸のみほとけ」を実施した。(7月) (奈良国立博物館) ア ・奈良女子大学大学院人間文化研究科 野尻忠企画室長「日本アジア古典資料論Ⅰ・Ⅱ」 ・神戸大学大学院人文学研究科 岩井共二情報サービス室長、吉澤列品室長「文化資源論講座」 イ 京都美術工芸大学 内藤栄学芸部長「正倉院展 出前授業」								
								
「織ってみよう!糸のみほとけ」								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
キャンパスメンバーズ加入大学数※	28校	-	-		27	27	25	27
インターンシップ参加者数	0人	-	-		-	3	3	2
連携講座参加者数	8人	-	-		-	10	10	12
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、大学と連携し、研究員による講座を実施し、歴史・伝統文化の発信に努め、また、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学との連携事業において、親子向けワークショップを実施するなど、若年層向けの教育普及活動を行うことができた。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ制度は、加入校を増やすことができ、大学との連携事業においては計画どおりに実施することができた。親子向けワークショップの実施についても、参加者及び大学側双方に教育的効果があり、人材育成に貢献することができた。以上のことから中期計画に対し順調に成果を上げている。なお、インターンシップの募集について、31年度は改めて検討する予定である。							

※京都国立博物館との共通加入校を含む。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア インターンシップを継続して実施する。 (九州国立博物館) ア 大学生の博物館実習の受け入れを実施する。 イ 放送大学の面接授業を実施する。								
担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長 木川りか 課長 山野孝 課長 國谷勝伸					
【実績・成果】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 文化財保存修復施設を利用して地域大学との連携を図る短期インターンシップを実施した。 (九州国立博物館) ア 博物館実習生を13大学17人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は5大学8人) イ 放送大学の面接授業を実施した。(2日間、39人受講)								
【補足事項】 (4館共通) ア 大学等との連携を継続するため、30年度も募集・実施し、各教育機関(大学・高等学校)が継続して加入した。(30年度加入校内訳: 大学13校、短期大学2学、専門学校1校、高等学校6校、高等専修学校1校) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 装演技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。 研修期間は8月27日～8月31日の5日間。広島市立大学4人、九州産業大学2人、佐賀大学1人、別府大学1人の計4大学8人が参加した。屏風の下貼り製作を通じて、修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。 (九州国立博物館) ア 博物館実習 ・実習実施期間: 8月22日～9月3日(10日間)(合計13大学17人) ・実習内容: 博物館の各機能に関するレクチャー、実習(来館者対応、学芸員体験、体験型展示室「あじっば」用工作キット製作・展示プラン作成)を行った。また、30年度より収蔵品の情報管理と公開をテーマにした「博物館と情報システム」の講義を行った。								
 「文化財保存修復研修」研修風景  博物館実習(文化財写真についての実習風景)								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	26	27	28	29	
キャンパスメンバーズ加入大学数	23校	-	-	24	25	25	25	
インターンシップ参加者数	8人	-	-	-	7	4	3	
見学対応実施回数	3回	-	-	-	7	6	3	
見学対応参加者数	140人	-	-	-	450	243	140	
その他事業実施回数	14回	-	-	-	12	11	8	
その他事業参加者数	264人	-	-	-	86	136	105	
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップをはじめとする大学等と連携した事業を継続して実施した。「文化財保存修復研修」においては、大学における学習や進路選択において参考となる貴重な体験を提供できた。 また、13大学から17人の博物館実習生を受け入れ、館内各部門と連携・協力しながら10日間の実習を実施できた。放送大学の面接授業についても、大学担当者との内容を検討し、計画どおり実施できた。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 当館が対応でき得る適切な数の実習生・研修生の受入を行い、中期計画どおり、人材育成に寄与できた。引き続き、広報周知を行い、大学との連携事業を推進していきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与							
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。								
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	保存修復課長 富坂賢			
【実績・成果】 (4館共通) ・筑波大学大学院1名、共立女子大学大学院1名の都合2名のインターン生を、延べ10日間受け入れた。作品の点検調書、カルテなどの電子化作業、特別展展示作業、X線CT撮影の見学、測定サンプルづくりなど科学調査の現場作業、修理作業周辺の関連作業を行ってもらい、最終日には作業の報告会を行った。 ・特定非営利活動法人 文化財保存支援機構主催の「平成30年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を共催者として支援した。								
								
写真1, 2 「平成30年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース」(左) とインターン活動における綿布団制作(右)の様子								
【補足事項】 「保存修理事業者を対象とした研修会」の開催日数、参加者数は黒田記念館において講義形式で行われたものを記入している(他に現地見学会が3回あった)。								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
保存修理事業者を対象とした研修会 開催日数	3回	-	-		2	1	1	3
参加者数	29人	-	-		37	18	23	39
インターン受入人数 大学院生のための研修会参加人数	2人 -	- -	- -		2 -	4 -	4 -	2 -
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 インターン制度に関しては2名から4名を想定しており、最低限の人数に対する受け入れを行えたと考える。保存修復課の日常業務を経験してもらい、大学教育を補完できる教育活動が行えた。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 日常業務における受け入れ可能人数において30年度も中期計画記載の目標を達成することができた。29年度と同様2名であったが、内容も幅広くこなせた上、作業や知識の深さも十分な活動ができたと考える。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与								
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 大原嘉豊						
【実績・成果】 (4館共通) ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回9回・会議9回) ・当館開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計2回・113人) 4月16日「池大雅 天衣無縫の旅の画家」(52人) 10月9日「特別展 京のかたな 匠のわざと雅のこころ」(61人) ・文化財修復に係わる大学院生(1人)のインターンシップ実習(8月20日～8月31日、9月10日～9月21日)を実施し、12月10日に口頭による報告会を開催し(出席者24人)、報告書を作成した。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を9月7日に実施した。(参加者11人) ・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換等を行った。(計19回・116人) 9月20日 多摩美術大学 フィラデルフィア美術館東洋美術部、京都歴史資料館、大阪大学、清水寺(4人) 10月25日 大英博物館 平山スタジオ・日本東洋絵画修復(2人) 10月4日 ボストン美術館修復部、他(2人)、他16回 ・10月27日にシンポジウム「文化財の保存と修理」を主催し、研究者・技術者双方の視点から文化財修理の重要性を再認識するとともに、幅広い理解を得る機会とした(参加者120人)。									
【補足事項】 ・文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修復状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。 ・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の修理現場を体験することにより、修理技術の習得や向上に資することができた。 ・文化財修復を学ぶ大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は、多くの学校から意欲ある学生の参加があった。関係教育機関において当該研修会が一定の認知度を得るようになった結果といえる。実際の修理現場を体感する研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。									
									
保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会(30年9月7日)									
【定量的評価】項目		30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
保存修理事業者を対象とした研修会					経 年 変 化				
開催回数		2回	-	-		2	2	2	2
参加人数		113人	-	-		87	126	96	129
インターン受入人数		1人	-	-		1	2	3	2
大学院生のための研修会参加人数		11人	-	-	19	22	13	9	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度とほぼ同等の事業を遂行し、インターンの受け入れ事業を実施した。研究者・技術者双方の視点から文化財修理の重要性を再認識するとともに、幅広い理解を得る機会としたシンポジウム「文化財の保存と修理」には多くの参加者が来場し、博物館関係者のみならず一般に対する修理事業の普及啓発活動としても意義深いものとなった。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業の目標を順調に達成した。文化財修理の重要性を再認識するとともに、幅広い理解を得る機会としたシンポジウム「文化財の保存と修理」には多くの参加者が来場し、博物館関係者のみならず一般に対する修理事業の普及啓発活動としても意義深いものとなった。技術者との連携事業としても評価されるべきものとする。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与							
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行					
【実績・成果】 (4館共通) ・保存修理技術者に対する研修会を31年1月25日に開催した。 ・海外の修理技術者等の視察を6回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 4月9日：ロシアブリヤート共和国モンゴル学・仏教学・チベット学研究所研究者らによる視察(2人) 4月17日：韓国国立文化財研究所の学芸研究官らによる視察(4人) 5月8日：韓国国立文化財研究所長と韓国国立民俗博物館職員らによる視察(4人) 6月12日：韓国国立慶州博物館職員による視察(1人) 6月12日：韓国国立扶餘博物館職員と韓国国立公州博物館職員らによる視察(3人) 10月16日：中国南京博物館職員による視察(3人)								
【補足事項】 ・文化財保存修理所技術者研修会 31年1月25日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。 北村工房代表者からの修理に関する報告(「漆工品修理と模造制作をふりかえって」)と討議を行った。参加者は45人。								
								
30年度研修会での工房担当者による報告								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
保存修理事業者を対象とした研修会開催日数	7回	-	-	4	6	4	8	
参加者数	62人	-	-	67	74	51	77	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年により増減があるが、30年度はロシア、韓国、中国3か国の専門家が文化財保存修理所を見学した。日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えることができたことから、計画通り事業を遂行することができた。引き続き31年度も継続して取り組む。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、保存修理所技術者研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流が図られた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画は順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与							
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか					
【実績・成果】 (4館共通) ・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(計3回・32人参加) ・文化財保存、I P M (総合的有害生物管理) 普及のための講座・研修を開催した。(計5回、合計260人参加)								
【補足事項】 保存修理事業者と協力した研修会 ・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」 日程：8月27日～8月31日(5日間) 参加人数：8人 対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生 ・「古文書保存基礎講座」 日程：31年1月25日、26日 参加人数：24人 対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関の古文書等の担当者 主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館 協力：国宝修理装飾師連盟								
○ I P M普及のための研修会 ・「I P M館内研修」 日程：5月23日 参加人数：21人 対象：国立文化財機構・館内関係者 ・「環境調査報告会」 日程：5月29日 参加人数：30人 対象：館内環境整備関係者 ・「I P Mセミナー・I P M研修」 I P Mセミナー：10月24日、I P M研修：10月25日、26日 参加人数：延べ209人 対象：全国の博物館、美術館等の学芸員								
 <p>文化財保存修復研修の様子</p>  <p>I P M研修における実習の様子</p>								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29
保存修理事業者を対象とした研修会 開催回数	8回	-	-		9	7	6	9
参加者数	292人	-	-		175	179	473	533
インターン受入人数	8人	-	-		-	-	-	3
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財修理に関するインターンの受け入れやI P M研修等の教育普及事業を計8回実施することができた。30年度はシンポジウムを実施しなかったため参加者数は平年並みに戻った。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、修理技術者、I P M従事者、地元の教育委員会等と連携しながら、実習を積極的に取り入れたプログラムで実践的な研修を実施し、保存・修理に関わる人材育成に寄与した。今後も実践的な研修を継続していく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組							
<p>【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援(協賛・協力)を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (東京国立博物館) ア 賛助会等の会員制度を通して、リピーター獲得の促進を図る。 イ 上野文化の杜新構想実行委員会に参画し、上野地区の文化施設等と連携した各種事業を主体的に実施することで、認知度向上に努める。</p>								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 29年度より新会員制度へ移行し、会員総数は21,914人となった。 イ 友の会と賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会・内覧会を実施した。 ウ 株式会社みずほ銀行等の賛助会会員と協同で、認知度の向上に資するイベントを実施した。 エ 特別展「縄文1万年の美の鼓動」において、三菱商事株式会社と共催で障がい者向けの「特別鑑賞会」を実施した。 オ 各種事業のbeyond2020への登録や、文化庁が主催する高校生ニッポン文化大使2018に参画した。 (東京国立博物館) ア 29年度から新たな会員制度として導入した「国立博物館メンバーズパス(4館共通)」及び東京国立博物館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」の加入者増加に向けた取り組みを促進した。 イ 上野「文化の杜」新構想に基づき、上野全体の共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行やコンサート等を実施した。</p>								
<p>【補足事項】 ア 賛助会会員数621人の内訳は個人549人(プレミアム5人、特別17人、維持527人)、団体72団体(特別22団体、維持50団体)である。 イ メンバーズプレミアムパス・友の会の会員については、特別展を割安で観覧する目的での入会者も多く、30年度については開催された特別展と来館者のニーズが合わず減少となった。 ウ 会員制度については、現在の料金での維持が厳しくなっており、抜本的な制度改正が今後必要となる。</p>								
								
				30年度賛助会感謝会の様子 (事業報告会)				
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
賛助会等支援組織の会員数	21,914人	-	-	経 年 変 化	23,899	23,451	28,939	25,244
賛助会会員数	621人	-	-		414	464	455	559
友の会会員数	2,939人	-	-		2,145	2,041	2,337	2,967
メンバーズプレミアム (国立博物館メンバーズパス を含む)会員数※28年度までの パスポートとベーシックに相当	18,354人	-	-		21,340	20,946	26,147	21,718
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 会員制度は、特別展の内容が大きく左右するため会員数は減少となったが、賛助会は、個人・団体ともに増加している。企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。「上野ウェルカム・パスポート」については好評を得ており、時事に合わせたデザインや特典を盛り込み使用率が向上している。</p>							
<p>【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。</p>								
【中期計画に対する評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 会員数は展覧会の内容などにより増減している。特別展の観覧券を目的とする入会者が多いプレミアムメンバーズパスについては、特にその傾向が顕著に出ている。一方で、寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに堅調に推移しており、全体としての会員数は減少しているものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。2020年の開館150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、支援者の増加に努めたい。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組							
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援(協賛・協力)を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (京都国立博物館) ア 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 イ ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 数馬厚人 企画室長 山川暁					
【実績・成果】 (4館共通) ア 「国立博物館メンバーズパス」は発売初年度(29年度)の需要には及ばず会員数は減少したが、券売所に申込書記入台を設ける等会員数の拡大に取り組んだ。 イ 当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、29年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を付与した。 ウ ・タクシー乗務員向けの特別鑑賞会を実施し、広報協力を得ることができた。 ・特別展共催者や旅行会社等が企画する特別展の団体貸切鑑賞会を受け入れた。 ・(株)三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。 エ 特別展の協力企業である(株)日本香堂が提供するラジオ番組で展覧会のPRを行った。新たに平常展の一環である特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」の広報面での協力にこぎつけた。 オ 「beyond2020」に特別展「京のかたな」をはじめとする多くの事業を登録した。 (京都国立博物館) ア 支援団体(一般社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び総会の開催に協力した。 イ ・ミュージアムパートナー制度では、29年度の全てのパートナーより30年度も継続して支援を得られた。 ・文化財保護基金では企業等からの寄付金を引き続き受け入れたほか、雑誌とのコラボレーション商品を新たに開発する等、支援者の拡大を図った。								
【補足事項】 (4館共通)								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価		26	27	28	29
賛助会等支援組織の会員数	1,597件	-	-	経 年 変 化	6,873	7,476	5,855	2,266
清風会及びミュージアムパートナー会員数	485件	-	-		351	368	370	452
国立博物館メンバーズパス会員数	1,112件	-	-		-	-	-	1,814
パスポート会員数※	-	-	-		6,522	7,108	5,493	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 「国立博物館メンバーズパス」については会員数が伸び悩んでいるため、継続して周知・広報を行い、リピーター獲得に努めたい。企業等との連携においては、貸切鑑賞会に係る制度を新設することで特別な観覧環境を提供できるようになったため、企業の顧客等の従来とは異なる客層からの認知に繋げていきたい。その他の事業については29年度に引き続き計画どおりに遂行した。							
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 企業等との連携及び会員制度は全体としては拡大傾向にあると言える。個々の事業について活性化すべく、継続した事業運営及び必要に応じた見直し等を図りたい。							

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組							
<p>【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。</p> <p>ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (奈良国立博物館) ア 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 イ 支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。 ウ 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 エ 地域、企業との連携を推進する。</p>								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	臣守常勝				
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 入会案内チラシの配布、企業への訪問等、広報及び営業活動を行い賛助会員の新規獲得を図った。 イ 賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。 ウ 大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。 エ 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 オ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として実施される「日本博」の趣旨に合わせた展覧会の検討を行った。 (奈良国立博物館) ア 支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。 イ 特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。 ウ 賛助会員93件（特別支援会員：4団体、特別会員4団体、一般会員（団体）：17団体、一般会員（個人）：68人） エ 地元自治体と連携して観光イベントを実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。</p>								
<p>【補足事項】 (奈良国立博物館) ウ 三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの作製・販売を行った。商品カタログへの情報掲載や、PRイベントの実施を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋がった。</p> <p style="text-align: right;">コラボレーションギフト</p> 								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価		26	27	28	29
賛助会等支援組織の会員数	1,499人	-	-	経 年 変 化	3,235	3,665	3,812	1,740
賛助会会員数	93件	-	-		73	74	73	76
奈良博プレミアムカード会員数	1,185人	-	-		-	-	-	1,347
国立博物館メンバーズパス会員数	221人	-	-		-	-	-	317
パスポート会員数※	-	-	-		3,126	3,591	3,739	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 奈良博パスポートを28年度で終了し、29年度より国立博物館メンバーズパス及び奈良博プレミアムカードの販売開始したが、優待内容が大きく変わったことにより、会員数が減少したと思われる。今後は優待内容を充実させるため、奈良博だけの入館に留まらず、他館他機関の入館においても優待できるよう改善したい。また、賛助会員においては会員を新規獲得するため、個人会員向けの入会案内チラシを積極的に配布したり、地元企業を訪問して団体会員へ勧誘する等、広報及び営業活動を強化した。29年度に比べて特別会員1団体、一般会員（団体）2団体、一般会員（個人）14人増となる十分な成果をあげることができた。</p>							
<p>【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。</p>								
【中期計画に対する評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、既存会員に対しては、これまでに引き続き特別鑑賞会を実施する等支援の継続を図った。 また、特別展の実施に際して企業から協賛金を獲得したり、大手百貨店と商品の共同開発をしたりする等、企業との連携を強化して、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋がった。</p>							

※パスポート制度は29年3月31日で廃止

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組								
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援(協賛・協力)を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (九州国立博物館) ア 賛助会員制度の拡充を図る。									
担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長 山野孝 課長 田中正一 課長 國谷勝伸						
【実績・成果】 (4館共通) ア 「九州国立博物館友の会」、「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」及び「国立博物館メンバーズパス」の会員制度を継続し拡充を図った。 イ 「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、特集展示チラシ等を送付した。 ウ 古都太宰府ナイトエリア創出委員会、福岡県観光局等と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。 エ 企業より、展覧事業について各種支援(協賛・協力)を得た。 オ 30年度に実施した特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの事業認証を受けた。 (九州国立博物館) ア 賛助会員の広報に努め、新規会員の獲得を図った。30年度の新規加入数は20団体、25人であった。									
【補足事項】 (4館共通) ア 「九州国立博物館友の会」「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」「国立博物館メンバーズパス」「九州国立博物館賛助会」の会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。 ウ ・西日本新聞社及び公益財団法人九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つに登録された「博多祇園山笠」の飾り山を、開館以来連続してエントランスに展示した。 ・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携し、子どもたちを対象にしたワークショップイベントを開催した。近隣市町の中学校美術展を開催した。 ・福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。 オ beyond2020プログラム事業認証 11件 (九州国立博物館) ア 賛助会員(プレミアム会員(個人)3人、特別会員(個人)2人、維持会員(個人)20人、プレミアム会員(団体)1団体、特別会員(団体)3団体、維持会員(団体)16団体)									
									
<p style="text-align: right;">賛助会感謝会(31年3月)での当館館長による特別展室の展示解説の様子</p>									
【定量的評価】	項目	30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
	賛助会等支援組織の会員数	5,332人	-	-	経年変化	5,182	5,777	6,016	5,193
	賛助会会員数	45人	-	-		-	-	-	2
	友の会会員数	73人	-	-		192	206	268	83
	メンバーズプレミアムパス会員数	5,181人	-	-		-	-	-	5,082
	国立博物館メンバーズパス会員数	33人	-	-		-	-	-	26
	パスポート会員数※	-	-	-		4,990	5,571	5,748	-
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		各種イベントの実施や、賛助会員制度の広報・拡充等により、企業との連携及び会員制度の活性化を図り、年度計画を実行できた。 ウェブサイトやパンフレット・チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力し、5,000人を超える会員数を獲得することができた。今後も当館の活動への理解を深めていただけるよう広報の充実を図り、支援者の増加に努めたい。							
【中期計画記載事項】									
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評定：B		賛助会制度や各会員制度の広報など、企業との連携や会員制度の活性化等による博物館支援者の増加を図る取り組みを実施し、中期計画を順調に進めている。今後も活性化を図りたい。							

※パスポート会員制度は29年3月31日に廃止。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																												
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信																												
【年度計画】 (4館共通) ア 文化財活用センターが中心となり、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」については、中国語版、韓国語版を公開するとともに掲載画像を増やし、その充実を図る。 イ 文化財活用センターが中心となり、収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。																													
担当部課	本部文化財活用センターデジタル資源担当 東京国立博物館博物館情報課			事業責任者	課長 田良島哲																								
【実績・成果】 (4館共通) ・文化財活用センター発足以降、ColBaseの運用を引き継ぎ、不具合の修正や画像の追加を行った(画像追加7,029枚)。12月に中国語、韓国語の所蔵品データを追加した(中国語8,073件、韓国語8,539件)。 ・文化財活用センター発足以降、e国宝の運用を東博より引き継ぎ、維持管理を行った。																													
【補足事項】																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">주무숙 애련도 周茂叔愛蓮圖</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"></td> <td style="vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>기관 관리 번호</td><td>A35</td></tr> <tr><td>문화재지정</td><td>국보</td></tr> <tr><td>분류</td><td>회화</td></tr> <tr><td>구성</td><td>1폭</td></tr> <tr><td>제작자</td><td>가노 마사노부(狩野正)</td></tr> <tr><td>시대/세기</td><td>무로마치시대 15세기</td></tr> <tr><td>재질/형태</td><td>지분독화 담채</td></tr> <tr><td>크기</td><td>세로 84.5 가로 33.0</td></tr> <tr><td>소장자</td><td>규슈국립박물관</td></tr> </table> <p style="font-size: small;">일본 회화의 가장 큰 유파인 가노파(狩野派)의 초대 유일한 국보로 무로마치시대 히가시야마(東山) 문적품이다. 벚드나무 가지가 흔들리는 상쾌한 물가 곁엔 선배는 애련설(愛蓮說)을 쓴 연꽃을 사랑한 숙(周茂叔 1017~73)이라고 생각된다. 주무숙은 전덕 있는 군자에 비유한 것으로 알려져 있다. 그 모티브는 '명예국도(陶淵明愛菊圖)' '임화정 애매도(林和靖愛梅圖)'와 함께 중국 문인의 풍류스러움을 그린 '사시승(四時僧)' 등의 지식인은 시문을 즐기며 중국 문화를</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">ColBase 韓国語データの画面</p>								주무숙 애련도 周茂叔愛蓮圖			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>기관 관리 번호</td><td>A35</td></tr> <tr><td>문화재지정</td><td>국보</td></tr> <tr><td>분류</td><td>회화</td></tr> <tr><td>구성</td><td>1폭</td></tr> <tr><td>제작자</td><td>가노 마사노부(狩野正)</td></tr> <tr><td>시대/세기</td><td>무로마치시대 15세기</td></tr> <tr><td>재질/형태</td><td>지분독화 담채</td></tr> <tr><td>크기</td><td>세로 84.5 가로 33.0</td></tr> <tr><td>소장자</td><td>규슈국립박물관</td></tr> </table> <p style="font-size: small;">일본 회화의 가장 큰 유파인 가노파(狩野派)의 초대 유일한 국보로 무로마치시대 히가시야마(東山) 문적품이다. 벚드나무 가지가 흔들리는 상쾌한 물가 곁엔 선배는 애련설(愛蓮說)을 쓴 연꽃을 사랑한 숙(周茂叔 1017~73)이라고 생각된다. 주무숙은 전덕 있는 군자에 비유한 것으로 알려져 있다. 그 모티브는 '명예국도(陶淵明愛菊圖)' '임화정 애매도(林和靖愛梅圖)'와 함께 중국 문인의 풍류스러움을 그린 '사시승(四時僧)' 등의 지식인은 시문을 즐기며 중국 문화를</p>	기관 관리 번호	A35	문화재지정	국보	분류	회화	구성	1폭	제작자	가노 마사노부(狩野正)	시대/세기	무로마치시대 15세기	재질/형태	지분독화 담채	크기	세로 84.5 가로 33.0	소장자	규슈국립박물관
주무숙 애련도 周茂叔愛蓮圖																													
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>기관 관리 번호</td><td>A35</td></tr> <tr><td>문화재지정</td><td>국보</td></tr> <tr><td>분류</td><td>회화</td></tr> <tr><td>구성</td><td>1폭</td></tr> <tr><td>제작자</td><td>가노 마사노부(狩野正)</td></tr> <tr><td>시대/세기</td><td>무로마치시대 15세기</td></tr> <tr><td>재질/형태</td><td>지분독화 담채</td></tr> <tr><td>크기</td><td>세로 84.5 가로 33.0</td></tr> <tr><td>소장자</td><td>규슈국립박물관</td></tr> </table> <p style="font-size: small;">일본 회화의 가장 큰 유파인 가노파(狩野派)의 초대 유일한 국보로 무로마치시대 히가시야마(東山) 문적품이다. 벚드나무 가지가 흔들리는 상쾌한 물가 곁엔 선배는 애련설(愛蓮說)을 쓴 연꽃을 사랑한 숙(周茂叔 1017~73)이라고 생각된다. 주무숙은 전덕 있는 군자에 비유한 것으로 알려져 있다. 그 모티브는 '명예국도(陶淵明愛菊圖)' '임화정 애매도(林和靖愛梅圖)'와 함께 중국 문인의 풍류스러움을 그린 '사시승(四時僧)' 등의 지식인은 시문을 즐기며 중국 문화를</p>	기관 관리 번호	A35	문화재지정	국보	분류	회화	구성	1폭	제작자	가노 마사노부(狩野正)	시대/세기	무로마치시대 15세기	재질/형태	지분독화 담채	크기	세로 84.5 가로 33.0	소장자	규슈국립박물관										
기관 관리 번호	A35																												
문화재지정	국보																												
분류	회화																												
구성	1폭																												
제작자	가노 마사노부(狩野正)																												
시대/세기	무로마치시대 15세기																												
재질/형태	지분독화 담채																												
크기	세로 84.5 가로 33.0																												
소장자	규슈국립박물관																												
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29																					
-	-	-	-	-	-	-	-	-																					
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財活用センターで管理・運用することとなったColBase及びe国宝を適切に維持管理した。31年度は所蔵品データの修正や内容の追加、画像の追加を継続するとともに、システムの維持・改修を行う必要がある。 e国宝についても、現システム運用開始後10年が経過するので、利便性やデータの品質改善を含めたシステムの更新を行う必要がある。																											
【中期計画記載事項】 ウェブサイト等において、文化財その他の関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。																													
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財その他関連する資料の公開についてウェブ上でさまざまな公開手段を設けるとともに公開データの件数を継続的に増加させた。																											

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信							
<p>【年度計画】 (4館共通)</p> <p>ア 文化財活用センターが中心となり、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」については、中国語版、韓国語版を公開するとともに掲載画像を増やし、その充実を図る。</p> <p>イ 文化財活用センターが中心となり、収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。 (京都国立博物館)</p> <p>ア 収蔵品の国宝・重要文化財・その他名品について6言語(日、英、中、韓、仏、西)の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムを継続して公開する。</p> <p>イ 平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。</p>								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡					
<p>【実績・成果】 (4館共通)</p> <p>ア 「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」の充実を図るため、館蔵品の原板フィルムデジタル化を積極的に行った。</p> <p>イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。 (京都国立博物館)</p> <p>ア 京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム(KNM GALLERY)については、立ち上げから9年が経過し、セキュリティ対策上の問題も確認されたことから公開停止することとした。以後の画像高精細化・多言語化は、文化財活用センターを中心に推進しているe国宝・ColBaseに統合することで、より多くの人に可能なようにしていく。また、当館ウェブサイト上の館蔵品データベースを引き続き公開し、館蔵品情報を提供した。</p> <p>イ 館蔵品データベースにおいて画像や解説等を適宜更新し、平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ継続して公開した。</p>								
<p>【補足事項】 (京都国立博物館)</p> <p>イ 館蔵品データベースの公開データを487件増加させた。</p>								
								
レファレンスコーナー								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」はセキュリティの観点から公開を停止したが、e国宝・ColBaseによる公開や平成知新館レファレンスコーナーやデジタルサイネージを通して、来館者に対する効果的な情報発信を図るとともに、館蔵品データベースの充実を積極的に行い、広報の充実を努めた。					
【中期計画記載事項】 ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。								
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 30年度もウェブサイト等を通じて、画像や解説を継続して公開した。館蔵品データベースについても公開データを増加し、中期計画に基づき順調に事業を実施しており、31年度以降も継続していく。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信							
<p>【年度計画】 (4館共通)</p> <p>ア 文化財活用センターが中心となり、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」については、中国語版、韓国語版を公開するとともに掲載画像を増やし、その充実を図る。</p> <p>イ 文化財活用センターが中心となり、収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。 (奈良国立博物館)</p> <p>ア 仏教美術情報の公開・普及を図る。</p> <p>イ 収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供する。</p>								
担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 宮崎幹子					
<p>【実績・成果】 (奈良国立博物館)</p> <p>ア 仏教美術情報の公開・普及を図るべく、既存フィルムのデジタル化や新規撮影を行い、関連データを整備して、インターネットで公開した。ガラス乾板データベースを6月1日から仏教美術資料研究センターにて公開した。</p> <p>イ 収蔵品データベース及び画像データベースで公開している画像について、引き続き非商業目的での使用に無償ダウンロードで提供した。</p>								
<p>【補足事項】</p> <p>30年度に続き、モノクロ原板のデジタル化とガラス乾板の整理(クリーニング並びに保存箱への封入)を実施した。26年度から行っているガラス乾板の整理は30年度中に完了し、保存棚も新たに設置した。ガラス乾板の整理事業と並行して、ガラス乾板約17,000枚のデジタルデータを登録したデータベースを構築し、6月1日から仏教美術資料研究センターにて公開した。このデータベースとガラス乾板の紹介文を『奈良国立博物館だより』(第106号)に掲載し、好評を得た。</p> <p>ガラス乾板は博物館黎明期からの歴史資料として、また初期の文化財写真の実例として大変貴重なものであり、昨今大きな注目を集めている。30年度は明治時代の館史史料(列品録)の一部も撮影を実施したが、ガラス乾板との照合により、明治30年(1897)以降の寄託品受け入れの状況も明らかになりつつある。今後とも、保存環境に配慮した資料の整備、館史資料の調査、ならびに情報公開を見据えたデジタル化に向けて、尽力していきたい。</p>								
								
『奈良国立博物館だより』第106号								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 デジタル撮影(6,973件)、既存原板のデジタル化(3,047件)、データベースへの登録件数(4,671件)ともに例年に準じた成果をあげており、年度計画を達成したといえる。ガラス乾板の整理とデジタル化及びデータベース公開も実施し大きな成果をあげた。					
【中期計画記載事項】 ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。								
【中期計画に対する評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 各事業の数値が例年に準じたものとなるだけに留まらず、情報の発信についても新たな試みを継続するなど、機能・サービスの強化を図っている。特に近年各所で史料としての意義が注目されているガラス乾板の整理を終え、情報公開が叶ったことも評価される。今後もより豊富な情報の発信につながるよう事業を進める予定である。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信								
【年度計画】 (4館共通) ア 文化財活用センターが中心となり、収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」については、中国語版、韓国語版を公開するとともに掲載画像を増やし、その充実を図る。 イ 文化財活用センターが中心となり、収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。 (九州国立博物館) ア 収蔵品に関する基本情報「収蔵品ギャラリー」を継続して公開する。 イ 対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。									
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 原田あゆみ				
【実績・成果】 (4館共通) ア 4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」に新収品を含むデータ342件、新規画像344件を追加で公開した。また、中国語版、韓国語版を公開した。 イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開中である。 (九州国立博物館) ア 収蔵品ギャラリーは、文化財の基礎情報に加えて展示情報をあわせて提供を続け、収蔵品に関する情報の普及を一層推進するとともに利用者の利便性を向上させている。 画像データベースを整備し、内外に公開することで利便性とサービスの向上を図った。 イ ・対馬宗家文書のデータベースは公開運用しつつ、公開画像を増やし、利用者の利便性やサービスの向上を高めた。 ・装飾古墳データベースは、引き続き公開運用を続けた。 ・郷土人形データベースでは、ボランティア・資料整理部によるデータ作成を引き続き実施し、約2,000件のデータを登録した。すべての郷土人形データの整理が完了した。									
					 <p>ColBase 韓国語ページ</p>				
					 <p>資料整理・データ作成の様子</p>				
【補足事項】 (九州国立博物館) ア 30年度はウェブサイト公開用の画像の整理・加工を進め、約1,000件の画像を追加公開した。収蔵品ギャラリーを29年度に公開した画像検索データベースと連動させ、利便性とサービスの一層の向上を図った。									
【定量的評価】	項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 ColBaseおよび収蔵品ギャラリーにおいてコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。対馬宗家文書データベース、装飾古墳、郷土人形データベースを引き続き公開した。						
【中期計画記載事項】 ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。									
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 情報の充実・拡充を図るなど、中期計画の3年度目としての実績を着実に上げつつある。特に郷土人形データベースは30年度で完成し、これまで外部サーバによる段階的な公開を行っていたが、内部サーバに移行し完全版を公開することができた。これにより31年度以降は外部サーバの借用料等を削減することができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 調査研究・教育等博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。 イ 博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 ウ 資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。								
担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長 田良島哲					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア ・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、11,975件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。 ・画像管理システムに画像データ12,542件を登録し、既存データ2,466件を修正して正確な情報の提供に努めた。 ・当館以外で開催された戦前の展覧会カタログ186冊のデジタル撮影を行った。また研究情報アーカイブズのデジタルライブラリーおよび「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において昨年度までにデジタル撮影した洋古書の情報を更新した。 ・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者4,616人) ・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。(新規分448冊 遡及分292冊) ・前年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード貼付を4,198件実施した。 イ ・東京国立博物館の列品を収載している図書について列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を継続して実施した。 ・protoDBにおける文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報40,762件を作成した。 ウ ・2018年4月よりILL(図書館間相互利用)サービスによる文献複写サービスの受付(館内外)を開始し、7月からはNACSIS-ILLの複写料金相殺サービスに参加した。 ・資料館利用案内(右図)を改訂し、10月の図書館総合展において配布するとともに、ALC(Art Library Consortium)参加の美術館・博物館図書室に送付した。 ・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。								
資料館 利用案内								
【補足事項】 ア 新規受入図書 5,508冊(ロシア語・特殊言語の図書整理外注を含む) 既存図書の遡及入力 3,352冊(主に1987年以前の展覧会カタログ複本) 逐次刊行物の新規受入 3,115冊 イ 当館開催展覧会カタログ 20,868件 他館開催展覧会カタログ 1,595件 当館刊行図書 16,499件 当館刊行雑誌 1,800件								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 外部の大学図書館等との文献複写サービスを新規に導入し、館内外における利便性が向上した。また収蔵品情報に文献情報を追加することにより研究支援サービスを強化できた。							
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 計画に定められた趣旨に則って、適切に資料の収集整理と公開を継続して行い、時宜に応じたサービスの改善を図っている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡					
【実績・成果】 ア 29年度に引き続き、文化財情報システムについて、館内業務に適応するため、登録、検索及び管理項目等の改修を行い、作業効率の向上を図った。 ・画像ストレージ(研究系ストレージ群)の増強を行った。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書3,162冊、逐次刊行物1,211冊を収集し、データベースへの登録を行った。								
【補足事項】 ア 原板フィルムのスキャンニング事業が順調に進んでいるため、当初の画像ストレージ整備計画を見直し、約20TBから48TBに増強を図ることとした。								
								
ラック実装状況								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 文化財情報システムの改修を行い、資料の管理や検索性が向上された。また、画像ストレージを増強することにより、今後フィルムのデジタル化を促進する体制を整えた。					
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、展覧会関連の調査・研究等を中心として基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料を計画通りに蓄積することができた。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2) 資料の収集と公開							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。								
担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 宮崎幹子					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。 図書については内外の利用者に対してサービスの充実を図るべく、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行い、システムに登録した(和書2,587冊、漢書46冊、洋書36冊、計2,669件)。写真については、デジタル撮影(6,973件)、既存原板のデジタル化(3,047件)、システムへの登録(4,671件)を行った。								
【補足事項】 博物館における調査研究成果の公表や一般への情報公開をさらに促進させるため、かねてより検討していたリポジトリを構築し、10月10日よりインターネットでの公開を行った。リポジトリでは、当館研究紀要『鹿園雑集』に掲載の論文や『奈良国立博物館だより』に掲載の記名原稿あわせて約600件と、館蔵品の報告書などを提供している。 リポジトリの公開にあたっては、美術史研究に不可欠である画像の公開を十全に行うべく、文化財所有者に事前に承諾を得るなどして、できるかぎり誌面と同様の情報が公開できるように努力した。 リポジトリの構築から諸手続、登録作業を経て公開にいたるまでの経緯について『アート・ドキュメンテーション通信』(119号)や『読売新聞』(7月10日)に記事を執筆するなど、情報の共有や広報にも努めた。 リポジトリの公開は、国立博物館では初めての試みであり、大方の好評を得ることができた。今後とも情報サービスの充実に尽力したいと考えている。								
								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 資料の収集・蓄積、仏教美術資料研究センターの利用者ともに例年に準じた数値をあげており、所期の目標を達成したとみなされる。また、国立博物館では初めての試みとなったりポジトリの公開も特筆されるべき成果である。					
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。								
【中期計画に対する評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 数値的に当初の目標を達成しているだけにとどまらず、リポジトリの公開を実現させるなど、情報の発信と充実に多方面から取り組んでいる。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開

【年度計画】
 (九州国立博物館)
 ア 画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 原田あゆみ
------	---------	-------	----------

【実績・成果】
 (九州国立博物館)
 ア

蔵書管理

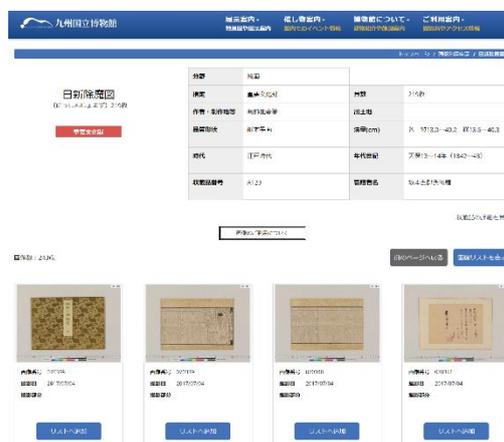
- ・新規に図書1,190点、雑誌993点、図録・報告書2,993点を購入又は受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登録した。
- ・蔵書管理システムへの書誌・所蔵データ登録を継続し、登録冊数の総数は190,874点となった。
- ・福岡県古賀市に別置していた図書70,312点について、蔵書管理システムにおけるデータの点検・整理を実施し、より適切な情報利用環境を整えた。

画像管理

- ・文化財情報システムの一部として運用している画像管理システムに画像を14,856点追加登録し、館内での文化財情報の利活用を促進した。
- ・29年度に公開した画像検索システムに1,981点の画像を新規に追加し、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。



画像管理システム



画像検索システムで新規に公開した画像

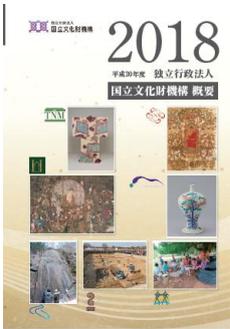
【補足事項】
 (九州国立博物館)
 ア 画像利用申請のうち5割以上が、29年度に公開した画像検索システムを活用して申請書が作成されている。申請件数も増加傾向であり、資料情報の発信及びその情報の利活用の促進に寄与している。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-		-	-	-	-

<p>【年度計画に対する総合評価】 評定：B</p>	<p>【判定根拠、課題と対応】 新規に図書1,190点、雑誌993点、図録・報告書2,993点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登録している蔵書データの整備を着実に実施した。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。</p>
---	---

【中期計画記載事項】
 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実と努める。

<p>【中期計画に対する評価】 評定：B</p>	<p>【判定根拠、課題と対応】 中期計画3年度目にあたり、当館の蔵書データ一般公開のための基盤整備（図書データの書誌・目録整備を遂行）を推進した。画像管理システムは内容の充実を図り、より使いやすいシステムとして整備を進めた。 31年度以降も図書目録整備を進める。画像に関しては、収蔵品の新規撮影を進め、年々増加している画像利活用のため公開できる画像を増やしていく。</p>
---	--

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (機構本部)	<p>ア 機構の概要、年報を作成する。</p> <p>イ 機構本部ウェブサイトを活用し、機構に関する情報の提供を行う。</p> <p>ウ 文化財活用センターウェブサイトを開設し、センターに関する情報の提供を行う。</p>							
担当部課	本部事務局総務企画課 本部文化財活用センター企画担当			事業責任者	課長 伊藤進吾 課長 松嶋雅人			
【実績・成果】 (機構本部)	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 『独立行政法人国立文化財機構概要 平成30年度』（日本語版・英語版）を6月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト (https://www.nich.go.jp/) に掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成29年度』を31年1月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。 組織改編に伴い、ホームページ構成のリニューアル及びバナーの設置を行った。 ウェブサイトのTLS化を行った（31年1月8日）ほか、必要なセキュリティ対策を随時実施した。 <p>ウ 文化財活用センターウェブサイトを開設し、センターに関する情報の提供を行った。</p>							
【補足事項】	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 『独立行政法人国立文化財機構概要 平成30年度』は、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。（日本語版2,200部、英語版：900部。いずれもカラー28ページ。） 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成29年度』：210部、カラー 4ページ・モノクロ959ページ。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財活用センターウェブサイト (https://bkc.nich.go.jp/) を7月1日に開設した。 ウェブサイトの内容や機能性についてセンター発足後に改めて検討を行い、より効果的なサイトへのリニューアルに着手した。 							
	 <p>『独立行政法人国立文化財機構概要 平成30年度』（日本語版・英語版）</p>			 <p>文化財活用センターウェブサイト</p>				
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、概要、年報を作成し、ウェブサイトの運用を行った。また、文化財活用センターウェブサイトの開設により、機構の新たな活動について広く一般に向けた情報提供を行うことができた。							
【中期計画記載事項】	<p>広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。</p> <p>ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。</p>							
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、印刷物の作成、ウェブサイトの運用による情報提供を行うことができた。31年度以降も引き続き、ロゴマークの活用、印刷物の見直しと改善、ウェブサイト等の適時適切な更新等、多方面での積極的な広報に努める。							

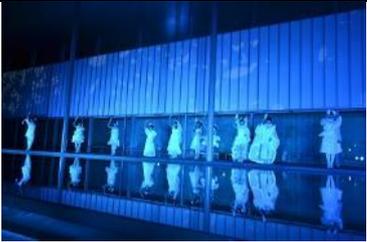
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
<p>【年度計画】(4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (東京国立博物館) 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 ア 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 イ 「博物館でお花見を」、「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。 ウ 公式キャラクターを活用した広報活動を行う。</p>								
担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長 鬼頭智美					
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 30年度年間スケジュールリーフレット(「東京国立博物館 展示・催しのご案内」2018.4-2019.3)を配布した。29年度同様体裁をA3二つ折とし、館内配布するとともに旅行社、メディア各社等に送付、周知を図った。また、31年度年間スケジュールリーフレットを90,000部制作した。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』(隔月刊・50,000部)を作成、配布した。また、隔月でマスコミ等300件余に「定期情報」を送付、主な事業については別途プレスリリースを作成、配信会社も活用しより広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。また各事業の特性に合わせて1,200件程度学校、ホテル等にチラシ・ポスターのDM発送を行った。周知にあたってはWEBサイト、SNS(Twitter、Facebook、Instagram)も活用した。 ・29年度に夜間開館PRチラシ・ポスターを作成したが、さらなるPRのため、英語、中国語(簡体字)、韓国語の情報を追記して再版した。 イ 「博物館でお花見を」、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」及び特別企画「斉白石」では、ポスター・チラシを作成、館内配布及びDM発送を行ったほか、プレスリリースをマスコミ等に発送・配信した。 ウ 広報大使として公式キャラクター「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を活用し、キッズデーなどイベント開催時を中心に登場して館内で来館者と触れ合うほか、博物館外でのイベントに参加、広報活動に努めた。</p>								
<p>【補足事項】(東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』は6・7月号より部数を増やし、館内外で積極的に配布した。 ウ 群馬県藤岡市で開催された「群馬古墳フェスタ2018」に登場したほか、「世界キャラクターさみっと in羽生」に参加、東京国立博物館のブースを展開、ワークショップを行うなど、館の広報に寄与した。</p>								
								
『東京国立博物館ニュース』 2018年6・7月号			世界キャラクターさみっと in 羽生			夜間開館ポスター		
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 計画通り定期刊行物及び定期的な情報を発信、総合文化展関係でのマスコミ報道を獲得した。また、夜間開館のPRを実施した。公式キャラクターについては、キッズデー、国際博物館の日など適正な時機に登場し、来館者が博物館に親しんでいただけるよう活動した。また、30年度は新たに「群馬古墳フェスタ」イベントに登場するなど、公式キャラクターを活用した広報活動についても充分に行うことができた。</p>							
<p>【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。</p>								
【中期計画に対する評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり個々の企画、対象等を考慮し、広報印刷物・ウェブサイト・SNSなど自主媒体を活用した広報活動を展開し、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めている。30年度は部数を増刷した『博物館ニュース』を館内外で積極的に配布し、自主媒体の十分な活用ができた。中期計画の達成を目指し、今後も自主媒体を活用するなど、積極的な広報活動を展開していきたい。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (京都国立博物館) ア 広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。 イ 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 ウ 公式キャラクターを活用した広報活動を行う。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 数馬厚人 企画室長 山川暁					
【実績・成果】 (4館共通) ア 30年度年間スケジュールリーフレットの配布及び31年度分の製作(40,000部)を行った。 (京都国立博物館) ア ・新春特集展示のポスター(2,000部)、チラシ(115,000部)の製作・配布を行い、他に特集展示等のポスター、チラシの製作・配布を行った。 ・新たに京都国立博物館パンフレット2019(10,000部)を制作・配布した。 イ 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。 ウ PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し、広報活動を行った。								
				 <p>トラりん YouTube チャンネル</p>				
【補足事項】 (京都国立博物館) ア ・新春特集展示のポスター、チラシに12月～31年2月に実施した新春特集展示「亥づくし」、特集展示「京の冬景色」、特集展示「美麗を極める中国陶磁」の情報を掲載した。 ・特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」においてはポスター・チラシを製作し、特集展示「謎解き美術! 最初の一步」、「百萬遍知恩寺の名宝」、「初公開! 天皇の即位図」、「雛まつりと人形」においてはチラシ・リーフレットを配布した。 ・京都市内のホテルを中心に外国語を用いた展示を紹介するアートカードを設置し、外国人観光客の誘致を行った。 イ ・博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の竹下景子氏、井浦新氏、藤原紀香氏を任命した。文化大使は特別展開会式に登壇し、ブログ等により展覧会の広報を行った。 ウ ・トラりんのブログやツイッター、フェイスブックに加えて新たにYouTubeチャンネルを開設し、展覧会や博物館の情報を発信した。 ・トラりんを最大毎週3日、1日5回(展覧会により異なる)館内に登場させ、来館者と触れ合うことで親しみやすい博物館のイメージの浸透を図った。 ・埼玉の全国的なキャラクターイベントや京都、大阪、広島などの博物館にトラりんを出張させ、キャラクターを通じて幅広く当館をPRした。 ・キャンパスメンバーズ加入校をトラりんが回り、キャンパスメンバーズの特典を広報し、特別展への来館を促した。								
				 <p>ホテルフロントへのアートカード設置</p>				
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 定期刊行物の作成及び年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を充分に行うことができた。また、外国人観光客を意識した有料広告を掲出したり、公式キャラクターを活用して各種イベントへ出演、YouTubeチャンネルを開始したりするなど、当館に馴染みのない層へのPRに着手できた。以上のことから、年度計画を十分に達成することができた。					
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや(中略)近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画3年目として、広報印刷物の製作及び当館ウェブサイト上の公式ツイッターや公式キャラクターなどの多様な媒体を活用し、積極的な広報を行うことができた。31年度についても媒体の形態に囚われることなく、積極的に広報活動を行いたい。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (奈良国立博物館) ア 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 イ 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 ウ 写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 臣守常勝					
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を年2回行った。また、当館ウェブサイトからもダウンロードができるサービスを継続して実施した。 (奈良国立博物館) ア ・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を3回実施した。 ・インバウンド対策として、特別展の割引券を4言語表記で作製し、近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。 ・特別展「春日大社のすべて」において、「春日大社参道マップ」を作製し、近隣の宿泊施設や寺社に配布した。 ・特別展「春日大社のすべて」の鑑賞の手引きとして、小・中学生を対象に「かるたで学ぼう-春日大社のすべて-」を作製した。 イ 笑い飯・哲夫氏(よしもとクリエイティブ・エージェンシー)を文化大使に任命し、出演するテレビやラジオ等で博物館のPRをしていただいた。 ウ 当館の認知度を高めるために、CMの撮影場所として仏教美術資料研究センター関野ホールを提供した。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) ア ・特別展「春日大社のすべて」において、名所・旧物を訪ねながら参道を散策できるイラストマップを作製し、博物館の認知度向上に繋がった。 ・小中学生が楽しみながら展覧会を学べるように「かるたで学ぼう-春日大社のすべて-」を作製した。								
								
春日大社参道マップ		かるたで学ぼう-春日大社のすべて-						
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 文化大使である笑い飯・哲夫氏によって、親しみやすく博物館や展覧会の紹介していただくことで、博物館のイメージアップに繋げることができた。 4言語(日・英・中・韓)表記での割引券を近隣社寺や観光案内所に配布する等、外国人観光客を取り込むための対策を実施した。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや(中略)近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことを図った。小中学生を対象としたかるた付きジュニアガイドのような特徴のある印刷物を作製する等、積極的な広報活動を行った。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (九州国立博物館) ア 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。 イ 現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、展示情報を発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。 ウ ポスター・チラシ・ウェブコンテンツを活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図る。 エ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。								
担当部課	学芸部企画課 広報課			事業責任者	課長 白井克也 課長 田中正一			
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。(31,000部) (九州国立博物館) ア 特別展の実施に伴い、担当研究員によるテレビ、ラジオ番組への出演や、地元の新聞やフリーマガジン等への展覧会内容の掲載を行うなど、マスコミによる広報・宣伝を行った。 イ ウェブデータベースの整備を継続し、当館ウェブサイトから詳細な展示品情報を提供した。 ウ 文化交流展示室で開催した特集展示のポスター・チラシを作成し、情報発信を図った。また、特集展示のPR動画を制作し、ウェブサイト上で公開した。 エ 太宰府天満宮参道にあるアンテナショップ入口に特別展バナーを設置し、参拝客への展覧会PRを図った。								
【補足事項】 (九州国立博物館) ア・参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。 ・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、季刊情報誌『アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。 ウ ポスター・チラシ・ウェブコンテンツのほか、参道フラッグやアンテナショップの日除け幕等を活用し、文化交流展示室からの積極的な情報発信を図った。								
 <p>動画配信による特集展示のPR</p>				 <p>アンテナショップでの日除け幕の活用とフラッグ掲出の様子</p>				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 リーフレット、ポスター・チラシなどの制作や活用を行うほか、展示替えの情報や、敷地内の紅葉や季節の花などの自然環境の細かな情報等をSNS（ツイッター）によって発信することで、来館者の関心を高めるよう努めた。					
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや（中略）近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、多様なメディアを用いて幅広い広報を実施することができた。今後も様々な媒体を通じた広報を戦略的に実施していきたい。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動							
【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (東京国立博物館) ア 報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。 イ 上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長 竹之内勝典 室長 鬼頭智美					
【実績・成果】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 (東京国立博物館) ア 特別展・特集展示及び教育事業についてマスコミ向けに情報を送付するとともに、記者発表会を6回、報道内覧会を7回開催した。 イ 上野「文化の杜」新構想実行委員会に加盟し先導的な役割を果たすとともに、社会的包摂プロジェクト「UENOYES バルーン DAYS 2018」やコンサートを開催した。また、イベント時の託児施設の開放など、地域との連携交流事業等を実施した。								
【補足事項】 (4館共通) ア 29年度に実施した成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社との連携事業である、成田国際空港第1ターミナルでの当館収蔵品画像を使った壁面・天井装飾に、新たに壁面・天井装飾エリアを増設した。空港利用者の視覚に訴えかけるような装飾で収蔵品を紹介することによって、当館への送客を図った。 (東京国立博物館) ア 特別展に加え、親子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン! なりきり日本美術館」(7月23日)においても報道内覧会を実施するとともにプレスリリースを発信、新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供し新聞・テレビなどで紹介された。								
		成田国際空港第1ターミナル壁面装飾 (12月増設分)		「トーハク×びじゅチューン! なりきり日本美術館」報道内覧会				
イ 上野「文化の杜」新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイト等へイベント情報の広報を積極的に実施した。また、「UENOYES バルーン DAYS 2018」の一環として、旧博物館動物園駅の公開イベントに協力するとともに、アクセシビリティ向上事業として、イベント時の託児施設の開放や、上野地区のバリアフリーマップの作成・公開に協力した。								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 特別展の記者発表会や報道内覧会には毎回150名～200名程度の記者が出席、各展覧会の広報を効果的に行うことができた。また、親子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン! なりきり日本美術館」では、総合文化展内の企画であったが、多くの報道を得た。 上野「文化の杜」新構想実行委員会においても各施設と連携して効果的な事業を実施するとともに、台東区等の地域と連携した広報活動によって相乗的な周知を図った。 また、成田国際空港第1ターミナルの壁面装飾を拡充することができ、当初の計画以上に十分な広報活動を行うことができたといえる。							
【中期計画記載事項】(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野文化の杜新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり広報印刷物・動画サイトや新規ツールも含めたSNS運営などの実施により、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めている。また、成田国際空港第1ターミナルの壁面装飾を拡充することなど、積極的な広報活動を展開できている。今後も自主媒体及び外部の媒体を活用し、時機にかなった話題を提供し、広報活動を充実させたい。 上野「文化の杜」新構想実行委員会のウェブサイトの作成や広報活動への先導的な役割を果たすなど、台東区等の地域と連携した積極的な広報を行った。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動							
【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (京都国立博物館) ア 地域等が主催する各種委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 イ 京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 數馬厚人 企画室長 山川暁					
【実績・成果】 (4館共通) ア ・特別展「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」において、JR東海と連携して特別な旅行プランを企画した。また、JRが持つ広報媒体を活用し特別展イメージの露出を増大させた。 ・31年度特別展の首都圏向け記者発表を共催者と連携して実施した。「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の記者発表は東京国立博物館(応挙館)を会場とした。 (京都国立博物館) ア ・周辺寺社及び商店街等で構成される東山南部地域活性化委員会に参加し、9月29日、30日に開催を予定していた同委員会主催の「第5回太閤祭り」(於:豊国神社)に協力した。(祭りは台風のため中止) ・当館が立地する地域は古くから陶磁器生産が盛んなことから、陶磁器組合と連携して当館で4日間にわたって陶磁器マルシェを開催し、およそ2,500名の参加者があった。 イ ・京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成し、4館を巡るスタンプラリーを実施した。 ○ その他、行政や近隣施設、大学等と連携し、広報活動を実施した。								
<div style="float: right; text-align: center;">  <p>応挙館での記者発表の様子</p> </div>								
【補足事項】 (4館共通) ア ・記者発表を合わせて7回行った。 ・特別展「京のかたな」の初回記者発表の様子はインターネットで生配信し、マスメディアに加え特別展に関心を持つ一般の方々の話題も集めた。 ・東京国立博物館を会場とした記者発表は、当該特別展の広報に繋がることはもとより、東京国立博物館の宣伝という相乗効果を伴うものであった。 ○その他、行政や近隣施設、大学等との連携内容は以下の通り ・文化庁創立50周年及び国際博物館会議(ICOM)京都大会開催1年前を記念して9月30日に記念オリジナルグッズを4,000部配付し、当館との繋がりをPRした。 ・ロケ地情報サイトや京都文化交流コンベンションビューローと連携し、当館のユニークベニューの情報を発信した。 ・京都市内のタクシー会社と連携し、タクシー会社向けの解説付き特別展内覧会を開催して乗客への広報を依頼した。 ・京都女子大学学生によるファッションショー及びプロジェクションマッピングに協力し、当館を会場として実施した。開催中の特別展に合わせたモチーフが披露され、特別展の広報に加え大学との連携・地域活性化に貢献した。								
<div style="float: right; text-align: center;">  <p>京都女子大学ファッションショー & プロジェクションマッピング</p> </div>								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 従来の広報活動に加え、行政や近隣施設、大学とも連携を強化して活動を行うことができた。また、マスメディアや地域と連携した広報活動を十分に行い、特別展の集客へと結実させた。記者発表自体に新たな試みを盛り込むなど広報を意欲的に行い、年度計画を十分に達成することができた。					
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや(中略)近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画3年目として、行政や近隣施設、大学との連携強化による積極的な広報活動を十分に行うことができた。引続き京都という立地を生かした広報を展開し、集客へと繋げていきたい。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動							
【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (奈良国立博物館) ア 近隣社寺・博物館等との連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。 イ 展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。 ウ 地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 エ 近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	臣守常勝				
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出や、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。 (奈良国立博物館) ア 奈良トライアングルミュージアムズ（奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館）として、PRイベントや相互割引を実施し、博物館の認知度向上及び集客増を図った。また、特別展「春日大社のすべて」について、JR東海と協力して、近隣社寺との共通拝観券を販売した。 イ 文化財の展示公開に際し、マスコミ向けの内覧を特別展で3回、特別陳列で2回、特集展示で1回、その他で2回開催した。そのほか個別の報道機関からの取材依頼にも、可能な限り応じた。 ウ 30年度文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」に採択され、地元自治体と連携して観光イベントを行う等、博物館を含めた奈良公園全体の活性化に繋がる事業を実施した。 エ 期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) ア JR東海の個人型旅行商品「うまし うるわし 奈良」キャンペーンと連携して、特別展「春日大社のすべて」「春日大社国宝殿」「興福寺国宝館」「円成寺」の共通拝観券を販売し、集客増に繋げた。 ウ 特別展「春日大社のすべて」において、近隣商店街各店舗の店頭で展覧会PR用のフラッグを掲出したり、有名かき氷店とタイアップ企画を実施したりする等、近隣商店街と協力して広報を行った。								
 共通拝観券								
【定量的評価】 項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 特別展においては主催者であるマスメディアと協力して情報発信に努めた。また、公共交通機関とタイアップしての広報活動も行うことができた。更に、30年度は近隣商店街や関係社寺との連携を強化してPRイベント実施する等、地域に根ざした広報活動を展開して集客増に繋げた。						
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや(中略)近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 自主媒体を活用した情報発信、マスメディアと協力した広報活動を実施できている。次年度以降も「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」を通じて、地元自治体や近隣社寺との連携を更に強化し、奈良公園全体を範囲とした共通観覧券を作製する等、積極的な広報活動を展開していく。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動							
【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (九州国立博物館) ア 報道発表会、内覧会、懇談会等を通じ、主要メディアの文化担当記者をはじめとしたマスコミとの連携を強化する。 イ 地域の自治体・商工団体・観光団体・公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 ウ 九州観光推進機構等を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 エ 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。								
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 田中正一 課長 國谷勝伸					
【実績・成果】 (4館共通) ア マスコミ各社を対象とする懇談会を3回実施した。(7月18日、31年2月27日、3月15日) (九州国立博物館) ア ・ポスター、チラシ、「展示・イベントスケジュール」、参道フラッグの設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。 ・商工団体へ「展示・イベントスケジュール」、季刊情報誌『アジアージュ』を送付し、会員等への周知を依頼した。 イ ・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」に博物館情報を掲載した。 ・九州観光連盟が主催するアジア各地での旅行会社を対象としたインバウンドイベントで当館のチラシを配布した。 ウ 古都太宰府ナイトエリア創出委員会や九州国立博物館を愛する会との地域連携イベントを実施し、広報活動の充実を図った。 エ 太宰府天満宮等の協力を得て、九州国立博物館広報番組「太宰府 九博 散歩道」を製作し、年6回放映した。								
【補足事項】 (4館共通) ア 31年度開催の特別展「室町将軍」の記者発表および懇親会を東京で行い、在京のマスコミ関係者との交流を図った。								
								
地域連携イベント 太宰府秋の夜祭り (11月16~17日)			太宰府古都の光 (9月25日)					
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、ポスター・チラシなどの制作や活用を行ったほか、夜間開館に合わせ、古都太宰府ナイトエリア創出委員会によるイベントを実施した。近隣地域の諸団体と連携したイベントを実施したことで、夜間開館の周知を図ることができた。						
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや(中略)近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、中期計画のとおり、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。また、夜間開館について、近隣地域の諸団体と連携した新たなイベントを打ち出すことができた。31年度以降も諸団体と連携しながら積極的に広報を行いたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回) イ ウェブサイトでは、ブログ等博物館の顔が見えるコンテンツを継続して発信する。 ウ SNS (Twitter、Facebook、Instagramを含む) を活用した情報発信を継続して行う。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長 田良島哲 室長 鬼頭智美					
【実績・成果】 (4館共通) ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。また、毎週の展示替え情報を一覧で確認できるウェブページを30年11月に追加した。 イ メールマガジンを配信した(26回)。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』を隔月(年6回)で各50,000部を制作、配布・送付した。 イ ブログ88エントリー、投票・ツイッターアンケート7回により、展示・催しもの、またキャラクターの活動等について紹介し、博物館に親しんでもらえるよう努めた。 ウ SNS (Twitter、Facebook、Instagram等)により適時性のある情報を発信し、利用者から好意的な反応を多く得た。								
【補足事項】 (東京国立博物館) ウ Twitter: フォロワー66,652件(29年度は59,732件)、Facebook: いいね! 29,217件(29年度は26,498件)。以上を見れば分かる通り、29年度より着実に数を伸ばしている。また、28年8月30日アカウント開設以来、Instagramではフォロワー8,223件を獲得し、31年度はさらに多くのフォロワー獲得が期待される。								
【定量的評価】 項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化 ※1・2	26	27	28	29
ウェブサイトのアクセス件数※1	7,679,851件	5,380,118件	A	① 4,248,437 ② 4,929,191	6,724,460	6,433,867	7,427,419	7,014,006
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトのアクセス件数は目標値以上の成果を達成し、SNSのフォロワー数も十分に確保できている。 今後は特にTwitter、Instagramのフォロワー数を増やすとともに、ツイッターのクイズ機能等を活用し、新たなユーザー開拓を図りたい。							
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用は計画通り実施している。 ウェブサイトについて、アクセス件数は順調に増加しており、前中期目標の期間の実績を超えている。さらに、時宜的なニーズやユーザー層に応じたコンテンツを充実できるように一層の改善を図る。							

※1 29,30年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

※2 上段①の数値は、本体サイトのみアクセス件数。下段②の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (京都国立博物館) ア 『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回) イ 博物館ディクショナリーを発行し、新刊をメールマガジンにて配信する。 ウ 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。 エ SNS(ツイッター)による情報発信を継続して行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 山川暁					
【実績・成果】 (4館共通) ア ウェブサイトアクセス件数は4,382,078件であり目標値を上回った。 イ メールマガジンを12回配信した。(145~156号) (京都国立博物館) ア 『京都国立博物館だより』(198~201号)、『Newsletter』(137号~140号)の発行を行った。 イ 博物館ディクショナリー(208~214号)を発行し、新刊をメールマガジンにて配信した。 ウ 収蔵品貸与情報を「館外での作品公開」として、ウェブサイトにて公開した。 エ 当館公式ツイッター、トラりんツイッター、トラりんフェイスブックにて情報発信を行った。								
【補足事項】 (4館共通) (京都国立博物館) ア 『京都国立博物館だより』200号記念号では増ページを行い、これまでの歩み、歴代特別展の観覧者数ランキング、研究員インタビュー、明治古都館のいま等の魅力的な特集を掲載した。 その他 ・WEB媒体を使用して展覧会見どころ紹介の生放送を行い、放送直後には担当研究員の氏名が、Twitterのトレンド(話題となっている単語)入りを果たした。 ・「京都国立博物館パンフレット2019」を作成し、ウェブサイトでも公開した。								
								
京都国立博物館だより 200号								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年 変化	26	27	28	29
ウェブサイトのアクセス件数	4,382,078件	2,274,464件	A		2,964,705	3,172,381	3,334,335	5,788,678
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 国宝展を擁した29年度には及ばなかったものの、ウェブサイトアクセス件数は目標値を大きく上回った。また、ウェブサイトの定期的な更新、メールマガジンの配信、SNSを活用した情報発信などに加え、定期刊行物の記念号の発行や「京都国立博物館パンフレット2019」の作成などの新規取り組みも行き、年度計画を超える成果をあげることができた。							
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数は29年度に引き続き目標値を大幅に上回り、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語のウェブサイトを設け情報発信を行うなど、中期計画3年目として計画を上回る成果を着実に達成している。今後も適宜ウェブサイトの改善を行い、アクセス件数の向上を図っていきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (奈良国立博物館) ア 特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回) イ ウェブサイトのほか、メールマガジン、SNS(ツイッター)による情報発信を行う。 ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。 エ 英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長 岩井共二					
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展・講座・イベント等の情報を随時更新し、ウェブサイトのアクセス件数が1,316,654件となった。 イ メールマガジンは、毎月末に約7,000人に発信。定期的な情報提供を行った。 (奈良国立博物館) ア 名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った。(年4回) イ 名品展や特別展の紹介に加え、イベント情報等をウェブサイトに掲載。さらにSNS(ツイッター)でフォロワー約17,000人に発信し、より迅速かつ効率的な情報発信を行った。 ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 エ 特別展、正倉院展、なら仏像館について、外国語チラシを作成し、外国人観光客への情報発信を行った。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) ア 『奈良国立博物館だより』は館内にて無料配布のほか、希望者には送付を行った。 イ 公式ツイッターのフォロワー数は、30年度中に17,000件を超えており、29年度から2,000件ほど増加となった。								
								
奈良国立博物館公式ツイッター								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
ウェブサイトのアクセス件数	1,316,654件	953,946件	A		1,196,669	1,112,057	1,167,926	1,385,404
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、ウェブサイト及び広報刊行物を通じて広く情報提供を行うことができた。ツイッターフォロワーは昨年より2,000件増加し、ウェブサイトアクセス件数については30年度と大きく変化はないが、当館から発信される情報に対する関心の高さは維持されており、成果は大きいといえる。					
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数は目標値を大きく上回っており、29年度同様高い水準を維持している。公式ツイッターによる情報提供については、迅速かつこまめな情報発信により、フォロワーが定期的に増加しており、時宜的なニーズにかなった広報として効果を上げている。特別展における外国人観光客の来館者も増えており、外国人への情報発信に一定の効果が見られる。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (九州国立博物館) ア ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 イ 『九州国立博物館季刊情報誌アジージュ』の編集・発行・配布を行う。(年4回) ウ 太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。 エ SNS(ツイッター)による情報発信を継続して行う。	
---	--

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 田中正一 課長 國谷勝伸
-------------	------------	--------------	--------------------

【実績・成果】 (4館共通) ア リアルタイムな展示情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。 イ ・メールマガジンを配信した(月2回)。 ・メールマガジン登録数は毎月平均50人ずつ増えており、また、平均開封率が10%といわれている中、約35%と高水準を維持している。 (九州国立博物館) ア ウェブサイトの4言語(日・英・中・韓)化について、言語毎に情報の出し方を変えるなど、充実させた。 イ 九州国立博物館季刊情報誌『アジージュ』の編集・発行・配布を行った。(年4回) ウ 太宰府市と連携した文化情報発信サイトによる情報発信を行った。 エ SNS(ツイッター)を活用した情報発信を継続して行った。また、ツイッターのフォロワーは順調に増えてきており、新たな広報ツールの効果が出ている。	
---	--

【補足事項】 ・メールマガジン登録数：6,874件 ・ツイッターのフォロワー数：8,824人、 月平均増加数：238人 ・ウェブサイトのアクセス件数： 1,752,803件 英・中・韓のウェブサイト	
--	--

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
ウェブサイトのアクセス件数	1,752,803件	1,696,500件	B		1,827,152	2,217,391	2,117,092	1,607,401

【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトの多言語化をより充実させた。また、ツイッターにより、駐車場の満車状況をリアルタイムに案内することができた。その他、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するツイッターやメルマガの効果は実感できた。30年度は人気の高い美術展の開催に伴い、アクセス件数が向上した。
-------------------------------	--

【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。	
--	--

【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。 ブログ、ツイッター等を活用し、展示情報やレストラン、ショップ等観覧環境についての情報をリアルタイムに更新するなど、広報活動を積極的に行った。 31年度以降も館内に設置する広報委員会において広報計画を策定し、広報活動を展開していく。
-----------------------------	--